RIKEN TECHNOS

リケンテクノスグループ
RIKEN TECHNOS GROUP

CSR報告書
Corporate Social Responsibility Report

2016

リケンテクノス株式会社

編集方針

リケンテクノスは2002年10月に「環境報告書」を、2005年よりこれを「環境経営報告書」として、環境に主眼をおいた企業としての取り組みと成果を公表してまいりました。2007年からは社会的側面を含め「CSR報告書」とし、企業の社会的責任(CSR：Corporate Social Responsibility)の観点からリケンテクノスグループの経営理念実現に向けた取り組みと成果をわかりやすく報告することを心がけています。
「CSR報告書」の第10号となる本報告書は、新3ヵ年中期経営計画を特集いたしました。スタート年度にふさわしく、エネルギッシュにお届けいたします。

報告書の対象範囲

報告対象期間

2015年4月1日～2016年3月31日
なお、本報告書には一部2016年度の活動内容も含んでいます。

報告対象範囲(所在地は16～19ページをご覧ください)

本報告書における環境報告の対象範囲は、リケンテクノス株式会社およびそのグループ会社下記18社です。項目によってはグループ会社を含まない場合もあります。

対象グループ会社名

- 進興電線株式会社
- 株式会社協栄樹脂製作所
- リケンテクノスインターナショナル株式会社
- リケンケミカルプロダクツ株式会社
- リケンファブロ株式会社
- リケンタイランドカンパニーリミテッド
- リケンエラストマーズタイランドカンパニーリミテッド
- PT. リケンインドネシア
- 上海理研塑料有限公司
- 理研食品包装(江蘇)有限公司
- リムテックコーポレーション
- リケンエラストマーズコーポレーション
- リケンベトナムカンパニーリミテッド
- 理元(上海)貿易有限公司
- リケンテクノスインターナショナルコリアコーポレーション
- リケンテクノスインターナショナルベトナムカンパニーリミテッド
- リケンU.S.A.コーポレーション
- リケンテクノスヨーロッパB.V.

報告対象分野

本報告書はリケンテクノス株式会社およびグループ会社の経営・社会・環境に関する取り組みを報告しています。

参考にしたガイドライン

本報告書の構成については、環境省による2007年6月発行の「環境報告書ガイドライン(2007年版)」、2005年2月発行の「環境会計ガイドライン(2005年版)」、およびISO26000を参考に作成しました。

発行時期

2016年9月(次回発行予定　2017年9月)

発行経歴

年度	発行年月	名称
2005	2005年10月	環境経営報告書
2006	2006年10月	〃
2007	2007年10月	CSR報告書
2008	2008年10月	〃
2009	2009年10月	〃
2010	2010年10月	〃
2011	2011年10月	〃
2012	2012年10月	〃
2013	2013年9月	〃
2014	2014年9月	〃
2015	2015年9月	〃

RIKEN TECHNOS GROUP
Corporate Social Responsibility

表紙について

リケンテクノスのコーポレートマークとリケンエラストマーズコーポレーションのある米国ケンタッキー州に咲き誇るゴールデンロッドという花を融合したデザインにいたしました。
コーポレートマークは2001年の創業50周年を機に社名変更と同時に一新したもので、RIKEN TECHNOSの“R”をベースに、コア事業であるコンパウンドとフィルムのイメージを組み合わせて信頼感を表し、未来へ羽ばたくしなやかな翼の形を表現しています。
リケンテクノスグループは、持続可能な社会の実現をステークホルダーの皆様とともに考え、行動していきます。

Report 2016

目 次

編集方針 …… 2

TOP Message …… 4

特集

新3ヵ年中期経営計画 …… 8

リケンテクノスグループの概要

リケンテクノスグループ概要 …… 14
国内・海外ネットワーク …… 16
製品のご紹介 …… 20
コーポレート・ガバナンス …… 22

社会性報告

お客様とのかかわり …… 24
株主様とのかかわり …… 27
お取引先様とのかかわり …… 28
地域の皆様とのかかわり …… 30
従業員とのかかわり …… 36

環境報告

環境管理活動 …… 42
活動結果の概要 …… 44

有識者の意見 …… 51
編集後記 …… 51

RIKEN TECHNOS

TOP Message

プロフィール

常盤 和明(ときわ かずあき)

1983年(昭和58年)千葉工業大学工学部卒、同年理研ビニル工業(現リケンテクノス)入社。07年米国リケンエラストマーズコーポレーション取締役社長、11年コンパウンド事業部副事業部長兼コンパウンド営業部長、13年6月取締役経営企画室長。16年4月代表取締役社長執行役員に就任。神奈川県出身、55歳。

すべての生活空間に快適さを提供するリーディングカンパニーを目指して

ご挨拶

新社長として

リケンテクノスは、今年で創業66年目を迎えました。創業以来、幾多の荒波にもまれながらも成長を続け、前年度は過去最高の連結経常利益を達成するに至りました。これもひとえにすべてのステークホルダーの皆様のおかげであります。私は8代目の社長として2016年(平成28年)4月1日に代表取締役社長執行役員に就任いたしました。先代からのたすきをしっかり引き継ぐと共に、更なる発展のため一心精進してまいります。社長就任にあたり、社員へ向けて発信した私の思いをご紹介したいと思います。

人の成長こそ企業の成長

私の入社7年目での初赴任にはじまりトータル15年間の米国駐在は、試練の連続でしたが、国籍や言葉の違いを超え仲間と共に未知の世界へチャレンジしたことは、私に多くの学びをもたらしました。特に痛感したことは、「人の成長こそ企業の成長」だということです。企業を野球チームにたとえてみるとわかりやすくなります。野球チームが強くなるためには、個々の選手のプレー技術の高さが不可欠です。それぞれの持ち場での役割を果たしてこそ、お互いの信頼感が生まれチームワークもうまく回り始めます。もともと、当社は「人と技術」のみを頼りとして設立されたベンチャー企業です。社員の成長なくして、リケンテクノスグループの発展はあり得なかったですし、これからもあり得ません。私たちは、与えられた持ち場でプロフェッショナルを目指し、最高のチームワークを築くことで、世界の技術革新を支える製品が作れるのです。

のびのびエネルギッシュに!

当社は生い立ちがベンチャー企業であることからアットホームな社風が特徴ですが、これからは攻めの姿勢が不可欠です。目まぐるしく変化する世界情勢は先を読むことが難しく、さらなる厳しい競争を強いられることでしょう。現状に甘んずることなく、社員がのびのびしつつもエネルギッシュに働くことができる環境を整えることが重要と考えております。活躍の場は、日本のみならずアジア、米国へと広がっています。一人ひとりが視座を高く、視野を広く、独自の視点を持つことで、リケンテクノスグループの柔軟な対応力を培い、市場の変化に合った取り組みをエネルギッシュに推進できると考えます。

結論を出し、即実行

柔軟な対応力を発揮するためには、外の世界をよく見聞きし、具体的な情報、つまり現場の生の情報を入手することが大切です。独自で入手した情報をもとに、普段から考える習慣をつけ、社員みんなで議論した上で、結論を出したら即実行することを目指しましょう。

新3ヵ年中期経営計画スタート

ACT NOW! ACT TOGETHER! 2018

リケンテクノスグループは、2016年4月に新3ヵ年中期経営計画をスタートさせました。そして、経営方針は、「ACT NOW! ACT TOGETHER! 2018～すべての生活空間に快適さを提供するリーディングカンパニーを目指して～」です。創業以来脈々と受け継がれてきたチャレンジ精神旺盛なベンチャー企業としてのDNAを核として、豊かな未来の創出のため価値のある技術を提供してまいります。そして、この新3ヵ年中期経営計画の目標達成において最も大切なものは、「人」です。社員の行動を促す「ACT NOW! ACT TOGETHER!」を経営方針に据えたのもそのような思いからです。
本CSR報告書では、新3ヵ年中期経営計画を特集いたします。私たちリケンテクノスグループがこれからの3年間で何を目指しているのかをご理解いただければ幸いです。

私たちは、これからもステークホルダーの皆様と共に歩んでまいります。今後ともさらなるご支援を賜りたくよろしくお願い申し上げます。

代表取締役 社長執行役員
常盤　和明

会長メッセージ

リケンテクノスは、今年の4月に新社長として常盤和明が就任いたしました。私より一回りも若い世代へバトンを渡し、新3ヵ年中期経営計画のスタートを機にリケンテクノスグループは、新たに船出しました。私は会長の立場から、補佐役として新社長をしっかりと支えてまいりたいと思います。また、取締役会の議長としてコーポレート・ガバナンスの強化にも努めてまいります。新3ヵ年中期経営計画でも謳っているように、リケンテクノスグループはこれから増々グローバル化を目指してまいります。そのためには、社員一人ひとりが良い意味での競争心を持つことが重要であります。競争心を持つためには、様々な局面において「気づき」が必要であり、「気づき」がなければグローバルな土俵で戦うことはできません。私も経営する立場から社員の気づかない点なども指摘しつつ、アドバイスを送りたいと思っております。
今後とも、リケンテクノスグループに対し倍旧のご厚情を賜りたく、切にお願い申し上げます。

代表取締役会長　清水 浩

リケンテクノスウェイ

リケンテクノス ウェイとは

100年企業を目指し、2011年の創業60周年を機に策定された経営理念です。創業時から受け継いでいる「ベンチャー精神」に代表される「リケンらしさ」に、新たな夢や発展の方向性が加わった「リケンテクノス ウェイ」は、「ミッション」、「コア・バリュー」、「基本行動」の3つから成り立っています。

ミッション（会社の使命・存在意義を表します。）

私たちは科学の力で　豊かさ、安心、快適を創り出す
チャレンジメーカーです
独創的で卓越した
樹脂素材の配合加工技術で
企業と人と社会に
新たな価値と喜びを提供し続けます

コア・バリュー（基本的価値観を表します。）

信頼しあい貢献しあう
新しい価値を生み出す
常に挑戦し成長する
仕事を楽しみワクワクする
共に解決し共に喜ぶ

CSRについて

リケンテクノスグループのCSR活動は、「リケンテクノスグループ 企業行動規範」に基づいて行われています。

リケンテクノスグループ企業行動規範

リケンテクノスグループは、公正な競争を通じて利潤を追求すると同時に、広く社会にとって有用な存在でなければならない。そのため当社は以下の原則に基づき、国の内外を問わず、人権を尊重し、関係法令、国際ルールおよびその精神を遵守するとともに、社会的良識をもって、持続可能な社会の創造に向けて自主的に行動する。

※全文は、リケンテクノスのホームページからご覧頂けます。

役員の紹介

取締役

代表取締役
会長
清水 浩（しみず ひろし）

代表取締役
社長執行役員
常盤 和明（ときわ かずあき）

代表取締役
専務執行役員
営業本部長
住吉 正充（すみよし まさみつ）

取締役
常務執行役員
管理本部長
兼 経営企画本部長
入江 淳二（いりえ じゅんじ）

取締役
（常勤監査等委員）
大河内 義孝（おおこうち よしたか）

社外取締役
（監査等委員）
根本 博（ねもと ひろし）

社外取締役
（監査等委員）
早川 貴之（はやかわ たかゆき）

社外取締役
（監査等委員）
中村 重治（なかむら しげはる）

執行役員

上席執行役員
技術本部長
兼 情報電子ビジネス
ユニットマネージャー
大谷 寛文（おおたに ひろふみ）

上席執行役員
リケンタイランド
カンパニーリミテッド
取締役社長
田坂 道久（たさか みちひさ）

上席執行役員
製造本部長
兼 品質保証本部長
島田 髙志（しまだ たかし）

執行役員
コンパウンド
統括部長
植山 俊一（うえやま しゅんいち）

執行役員
リケンエラストマーズ
コーポレーション
取締役社長
梶山 学之（かじやま がくゆき）

執行役員
業務管理室長
小泉 真人（こいずみ まさと）

執行役員
技術本部 副本部長
兼 研究開発センター長
兼 第3開発室長
杉野 等（すぎの ひとし）

執行役員
購買本部長
兼 資材部長
杉江 剛（すぎえ たけし）

執行役員
フイルム統括部長
登坂 真史（とさか まさし）

執行役員
PT. リケンインドネシア
取締役社長
佐藤 敏幸（さとう としゆき）

リケンテクノスグループ
新3ヵ年中期経営計画

2016年4月～2019年3月

リケンテクノスグループでは、2016年4月に新3ヵ年中期経営計画をスタートさせました。
私たちリケンテクノスグループの強みである「独創的で卓越した配合加工技術」を通じて
世界の技術の進歩に貢献していきます。目まぐるしく変化する世界の中で、企業と人と社会に対し、
今リケンテクノスグループができることを真摯にこなしていきます。
先端技術を支え、産業を支え、日本を、そして世界の未来を支えたい。
そのために、これからの3年間も素材の世界で挑戦し続けます。

私たちが提供してきた価値

安全・安心を支える素材
医療器具用、例えば血液回路チューブや輸液チューブ用などの材料を長年提供し続けています。衛生性だけでなく、安定した品質を保持することで安心してお使いいただけます。

安全・安心を支える素材
大切な電線を守る被覆材を提供し続けています。
高い安全性と堅牢性を持つ素材でライフラインやコミュニケーションネットワーク網を守っています。

省エネ
様々な商品の小型化、軽量化、リサイクル、断熱性能などに素材の面から貢献してまいりました。

環境負荷低減
リサイクル性の高い素材を開発したり、リケンテクノスの製品を使用することで、お客様の生産性が向上し、環境負荷も低減することにつながっています。

安全・安心を支える素材
自動車は、多くの電気を使用しています。
電力を供給したり情報通信のため、見えない部分に隅々まで張り巡らされたワイヤーハーネスの被覆材を提供し続けています。
過酷な使用環境に耐え、高い要求特性に応え続けています。

グローバル展開
海外におけるインフラ整備に伴う素材を現地の関係会社から提供し、雇用も創出してまいりました。

食品を守る
日本初の塩化ビニル製の食品包装用ラップを開発して以来、業務用から家庭用まで幅広いラインナップで食の安全を守っています。

豊かさを演出する素材
フィルム製品で様々なものを化粧してきました。
家具、建材、自動車、電化製品など。ただ美しいだけでなく、傷つきにくいなどの機能もプラスして豊かな生活空間を演出してまいりました。

私たちの強み
独創的で卓越した樹脂素材の配合加工技術

1951

ACT NOW!
ACT TOGETHER!
2018

**この3年間で
私たちが目指して
いること**

すべての生活空間に
快適さを提供する
リーディングカンパニーを
目指してまいります。

今動き出せ!
仲間とともに!

～すべての生活空間に快適さを提供する
リーディングカンパニーを目指して～

今、リケンテクノスを取り巻く環境

- エネルギー・資源の確保
- 地球環境の変化と災害の多発
- グローバル化と並行した国家間の安全保障問題
- 人口構造の変化
- ライフスタイルの多様化
- 技術革新

2016 → 2019

主要課題

新3ヵ年中期経営計画では、5つの主要課題を掲げ取り組んでまいります。

1 全事業のグローバル経営の深化

海外進出してから29年が経過し、拠点ごとの個別運営に集中するだけのステージを脱し、グローバル経営を深化させます。

2 収益力・財務体質の強化

前3ヵ年中期経営計画の間に国内外において様々な投資を実施いたしました。これらの投資に対する確実な刈り取りを行うと同時に、全事業を支える財務体質の強化もはかります。

3 革新的な生産体制の創造

リケンテクノスのコア技術である「独創的で卓越した配合加工技術」をさらに発展させるため、革新的な生産体制を創造してまいります。

4 光学分野における事業化の確立

ガラス代替フィルムのREPTY®DCを橋頭堡として未来製品の創出を目指します。

5 戦略的な人材育成による企業基盤の強化

「人の成長こそ、企業の成長」であり、活力ある組織風土を醸成し、積極的なポストチャレンジも実現してまいります。

重点市場

新3ヵ年中期経営計画では、以下の5つの市場を重点市場と位置付け、集中的に取り組んでまいります。

自動車

軽量化を実現する素材など、様々な機能性素材で

アジア・北米市場における圧倒的な存在感を確立するために、自動車内外装部材用の商権を拡大するとともに、新製品をグローバルに供給してまいります。また、非日系の顧客を獲得するための足掛かりを構築してまいります。

計数目標：69億円売上増（2015年度比）

医療・ヘルスケア

医療従事者の負担を軽くし、多くの人の命を支えます

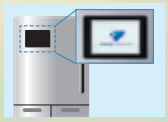
リケンテクノスグループのグローバル拠点と協業することで、アジア市場を凌駕していきます。また、メディカル用フィルム、バイアル容器、プレフィルドシリンジガスケット等の新市場の開拓を行ってまいります。

計数目標：32億円売上増（2015年度比）

光学分野・ディスプレイ

最新技術で、未来製品の創出を目指します

ガラス代替フィルムのREPTY® DCを橋頭堡として未来製品の創出を目指し、新規事業成功のモデルケースを実現します。



上 展開例：車載用曲面ディスプレイ
下 展開例：家電用大型タッチパネル

計数目標：売上高40億円

食品包材

食の安心・安全を包みます

塩ビラップは、安全性に加えその特徴（伸び、透明性、光沢性、密着性、等）がお客様の支持を集め、スーパーマーケットや飲食店で最も多く使用されています。食品包装用ラップの塩ビ化推進を柱に事業拡大をはかります。

計数目標：業務用塩ビラップシェア50%

オリンピック関連需要

快適な住空間を提供し、それを支えるインフラ基盤に貢献します

東京オリンピック関連需要を取り込むため、建材用途では、インフラ関連向けやホテル、オフィス、店舗などの内装材の拡販を行います。電材用途では、建設電販向けに拡販を行います。

※計数目標：新3ヵ年中期経営計画の最終年度2018年度での目標値

地域戦略

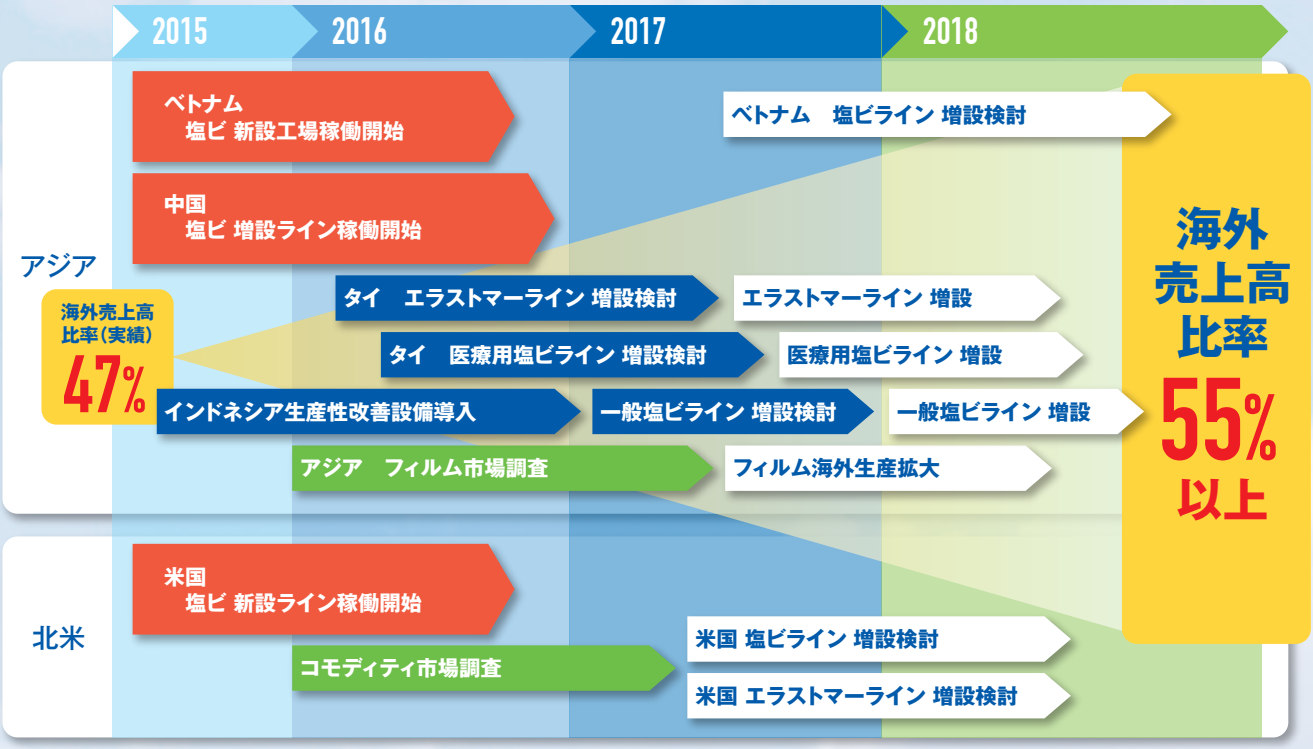
リケンテクノスは、早くから日本の品質を世界へ届け続けてまいりました。初代社長の今富祥一郎は、1957年（昭和32年）には米国を視察するなど、創業後、まもないうちから海外市場を見据え、コンパウンドの輸出を開始しました。輸出先は、韓国・台湾・中国をはじめとし、遠く北米・南米・アフリカにまで広がりました。フィルムは、3年もの間全技術陣を投入して完成させたウィンド・シェードを日本でただ1社米国へ輸出し、その後も、建材用・フラットケーブル用などに特化してアジア・北米・欧州諸国へ拡販を行いました。

本格的な海外進出の第一歩として、1989年（平成元年）に初の海外コンパウンド生産拠点としてリケンタイランドカンパニーリミテッドを設立。これを皮切りに、米国、ヨーロッパ、インドネシア、中国と、販売拠点や生産拠点を次々に設立。地域に根ざし成長を続けています。

新3ヵ年中期経営計画では、これまで行ってきた個別最適体制からさらに前進すべく、『全事業のグローバル経営の深化』を目指していきます。各国市場を俯瞰して捉え、より最適な製品供給体制を推進します。また、ガバナンス体制、社員教育の充実もはかり、グループ一丸となって、リケン品質の提供を目指します。具体的な課題として、以下の3つを掲げています。

- 海外拠点との協業による（戦略市場）拡販とグローバルネットワーク構築
- 未開拓・未進出地域の市場調査と非日系メーカーへの拡販
- 革新的な生産体制の創造

ロードマップ



アジア
アジアを最重点市場と位置付け、リケンテクノスグループの拠点間連携を強化し、販売エリアを拡大するとともに、新市場の開拓も行ってまいります。

北米
コモディティ市場のシェア拡大をはかってまいります。また、中南米市場への本格参入を目指します。

未進出地域、市場への進出を検討してまいります。

経営ビジョン

リケンテクノス ウェイ

私たちは科学の力で豊かさ、安心、快適を創り出すチャレンジメーカーです。
独創的で卓越した樹脂素材の配合加工技術で、企業と人と社会に新たな価値と喜びを提供し続けます。

経営方針

ACT NOW! ACT TOGETHER! 2018

今動き出せ! 仲間と共に!

～すべての生活空間に快適さを提供するリーディングカンパニーを目指して～

3ヵ年の新規設備投資

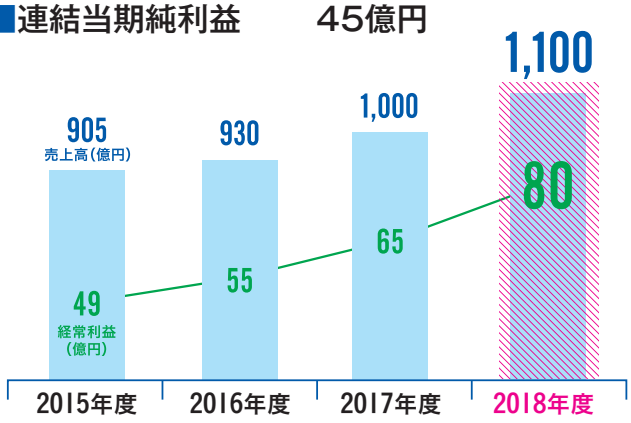
3ヵ年合計
160億円

［3年間の設備投資計画］

※メンテナンス含む

数値目標

- ■連結売上高　1,100億円
- ■連結営業利益　80億円
- ■連結経常利益　80億円
- ■連結当期純利益　45億円



経営目標

ROS 売上高営業利益率	ROA 総資本経常利益率	ROE 株主資本純利益率
7%	10%	8%
※5.6%	※5.8%	※6.2%

※2016年3月末の実績数値

ロゴの説明

新3ヵ年中期経営計画の遂行にあたり、全社員の士気が上がるようロゴを作成しました。
経営方針を直感的にとらえやすいよう工夫を凝らしました。

個々の力を集結し、パワーを凝縮させながら
さらなる高み、ひとつ先の未来へ、
素早くかつ優れたパフォーマンスをもって
進んでいく様を表現しています。

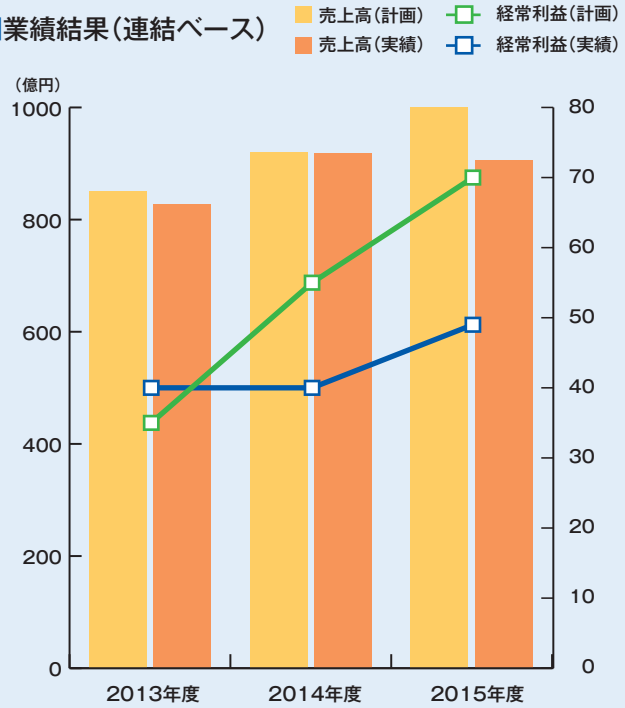
ACT NOW!
ACT TOGETHER!
2018

前3ヵ年中期経営計画　振り返り

前3ヵ年中期経営計画は、2016年3月に終了いたしました。掲げた5つの主要課題については、それぞれ施策を実施し、一定の成果を挙げることができました。計数目標は、残念ながら未達の結果となりました。未達要因としては、原材料価格の下落による製品価格の調整や国内の景気回復の遅れが売上高に影響し、光学製品の開発経費の増加が利益を押し下げる結果となりました。

Dimensional Change
次元を変えた取り組みを行う

■業績結果（連結ベース）



5つの主要課題に対する成果

●コンパウンド事業の更なるグローバル展開
インドネシア医療用ライン稼働、ベトナム工場着工、
中国増設ライン着工、北米塩ビライン着工

●フイルム事業の抜本的な立て直し
主力事業の安定黒字化実現。
光学事業への積極的な市場開拓とサンプルワーク開始

●ソリューション事業の事業化実現
マーケティング活動を積極的に実施し、ポートフォリオの
絞り込み実施

●最適な営業推進体制の構築
市場別型組織であるビジネスユニット制を導入し、
マーケットインの営業を実現

●徹底した人材育成
海外拠点への若手の派遣、組織マネジメント研修の実施

リケンテクノスグループ概要

会社概要(2016年3月31日現在)

社　　名	リケンテクノス株式会社	代 表 者	代表取締役 社長執行役員　常盤 和明(2016年4月1日就任)
設立年月日	1951年(昭和26年)3月30日	従 業 員 数	連結 1,765名　個別 668名
資 本 金	85億14百万円	本社所在地	〒101-8336 東京都千代田区神田淡路町二丁目101番地ワテラスタワー

事業内容

リケンテクノスは塩化ビニル樹脂コンパウンドの商業生産とその販売を目的に「理研ビニル工業株式会社」として1951年に設立されました。
2001年の創業50周年を機に社名を理研ビニル工業株式会社から「リケンテクノス株式会社」(RIKEN TECHNOSは、"RIKEN" "TECHNOLOGY" "SUPPLIER"を統合した名称)に変更しました。
創業以来培われてきた合成樹脂加工に係わる総合的な技術をベースに「コンパウンド事業」「フイルム事業」「食品包材事業」の3事業を柱に国内外で事業を展開しています。経営理念「リケンテクノス ウェイ」のもと、「科学の力のチャレンジメーカー」として、多様化・高度化するお客様や社会のニーズに適合した、高品質な製品・技術を提供しています。

コンパウンド事業

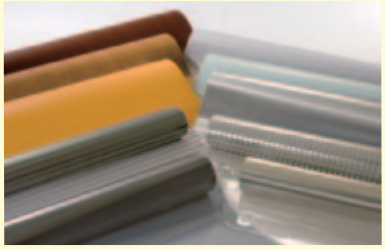
コンパウンドとは、ベースの樹脂に添加剤を何種類か混ぜ合わせ、新しい性質を持たせた複合材料で、主に押出成形や射出成形に使われる素材です。

● 主要製品
塩化ビニルコンパウンド、熱可塑性エラストマー、導電性コンパウンド、制電性コンパウンド、バイオマスコンパウンドなど

フイルム事業

配合した樹脂の特性に適した製法で高品質のフィルム製膜を行っています。また、複数のフィルムを貼り合わせたり、表面に機能性塗料をコートすることによって意匠性や機能性をもたせたフィルム製品を製造しています。

● 主要製品
建築内装用化粧シート、鋼鈑用フィルム、ポリエステル樹脂系フィルム、IRカットフィルム、ウィンドウ用装飾フィルム、光学用フィルムなど



食品包材事業

日本で最初に塩化ビニル樹脂ラップを開発したパイオニア2社が事業統合し、家庭用から業務用まで、幅広い包装用途に最適の品質・性能を追求した製品を開発し、市場に提供しています。

● 主要製品
塩化ビニルラップ、オレフィン系ラップなど

業績

2015年度における日本経済は、雇用所得の改善が見られるものの、個人消費については消費者マインドに足踏みがみられ、本格的な回復には至りませんでした。

海外では、米国経済は、個人消費や民間設備投資が堅調で景気回復基調が続いています。欧州経済は緩やかに回復しているものの、地政学的リスクの影響などに留意すべき状況が続いています。また、中国の景気減速による金融市場の不安定化や原油価格の下落が、アジア地域や新興資源国の経済成長を減速させました。

産業別には、国内の自動車業界は、全体としては復活の兆しが見られます。建材業界では、低迷が続いていた住宅着工件数も下げ止まりの兆しが見られ、家電業界では、高付加価値品への買い替えが進み回復傾向となりました。

このような環境の中、当社グループは、グローバルな視点で顧客ニーズを確実に捉えて受注に繋げることで業績の向上に努めました。また、海外需要を確実に獲得するため、ベトナム国の製造子会社の新設、中国のコンパウンド工場の増設および北米のコンパウンド工場の増設を進めました。以上の結果、連結売上高は90,589百万円、前期比1.5%減少となったものの、連結営業利益は5,084百万円、前期比39.2%増加、連結経常利益は4,931百万円、前期比21.4%増加、親会社株主に帰属する当期純利益は2,482百万円、前期比30.6%増加となり、いずれも過去最高益となりました。

※業績についての詳細は、当社ホームページの「財務・IR」のページをご覧ください。

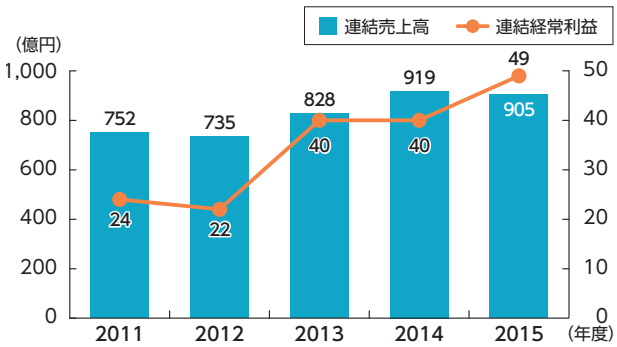
2015年度 業績

(単位:億円)

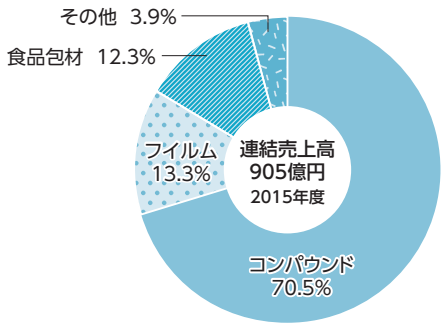
	連結	個別
売上高	905	395
営業利益	50	8
経常利益	49	18
当期純利益	24※	16

※親会社株主に帰属する当期純利益

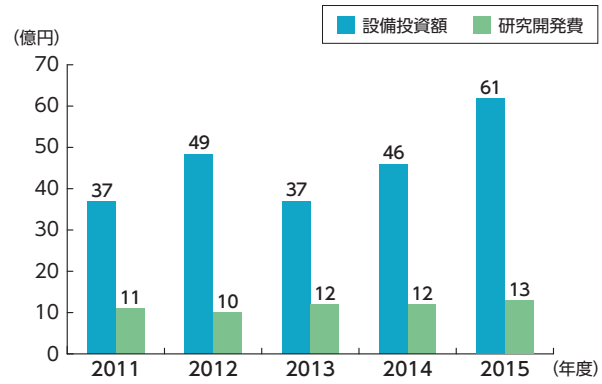
業績の推移【連結】



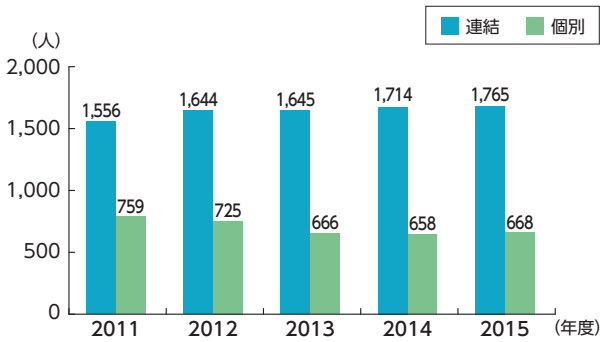
セグメント別連結売上高構成比



設備投資額および研究開発費の推移【連結】



従業員の推移



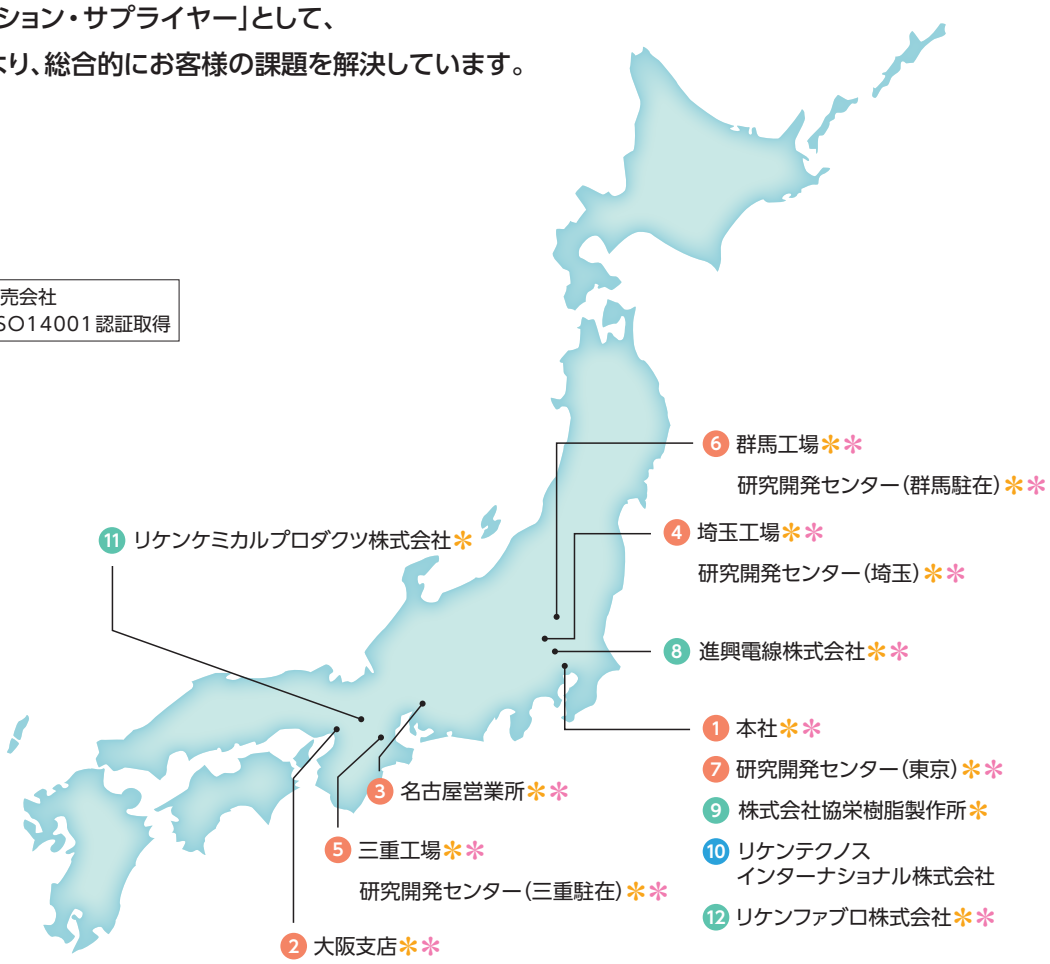
国内・海外ネットワーク

リケンテクノスグループは、リケンテクノスおよび関係会社18社で構成されています。
創業以来、積極的に国内外市場を開拓し、リケンテクノスブランドの浸透に努めてきました。
「マテリアル・ソリューション・サプライヤー」として、
国内外拠点の連携により、総合的にお客様の課題を解決しています。

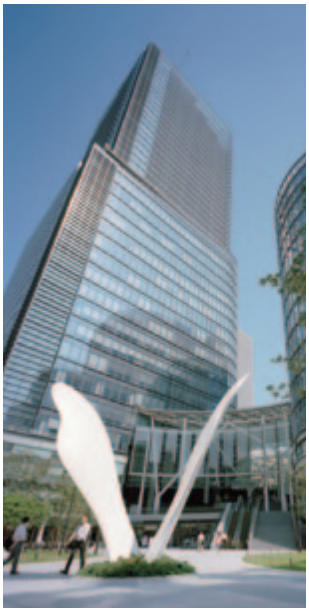
国内

●事業所　●製造会社　●販売会社
＊ISO9001認証取得　＊ISO14001認証取得

2016年9月1日現在



リケンテクノス株式会社事業所および国内関係会社


1 本社

2 大阪支店

3 名古屋営業所

4 埼玉工場、研究開発センター（埼玉）

5 三重工場、研究開発センター（三重駐在）

6 群馬工場、研究開発センター（群馬駐在）

7 研究開発センター（東京）

リケンテクノス株式会社事業所	主な業務内容	所在地
① 本社	本社機構、営業	東京都千代田区
② 大阪支店	営業	大阪府大阪市
③ 名古屋営業所	営業	愛知県名古屋市
④ 埼玉工場	コンパウンド・フィルムの製造	埼玉県深谷市
⑤ 三重工場	コンパウンド・フィルムの製造	三重県亀山市
⑥ 群馬工場	クリーン環境下での高機能フィルムの製造	群馬県太田市
⑦ 研究開発センター	研究開発および国内外拠点の技術的サポート	東京都大田区 埼玉県深谷市 三重県亀山市 群馬県太田市

国内関係会社	主な業務内容	所在地	資本金	出資比率
⑧ 進興電線株式会社	電線の製造・販売	埼玉県入間市	4,800万円	100%
⑨ 株式会社協栄樹脂製作所	合成樹脂製品の成型加工および製品の販売	東京都千代田区	2,400万円	100%
⑩ リケンテクノスインターナショナル株式会社	合成樹脂加工品の仕入れ販売	東京都千代田区	1,000万円	100%
⑪ リケンケミカルプロダクツ株式会社	コンパウンドの製造・販売	滋賀県湖南市	3億円	100%
⑫ リケンファブロ株式会社	食品包装用フィルムの開発・製造・販売、日用品雑貨の製造・販売	東京都千代田区	2億円	100%

国内関係会社は本社所在地のみを表示しています。

⑧進興電線株式会社

⑨株式会社協栄樹脂製作所

⑩リケンテクノスインターナショナル株式会社

⑪リケンケミカルプロダクツ株式会社

⑫リケンファブロ株式会社

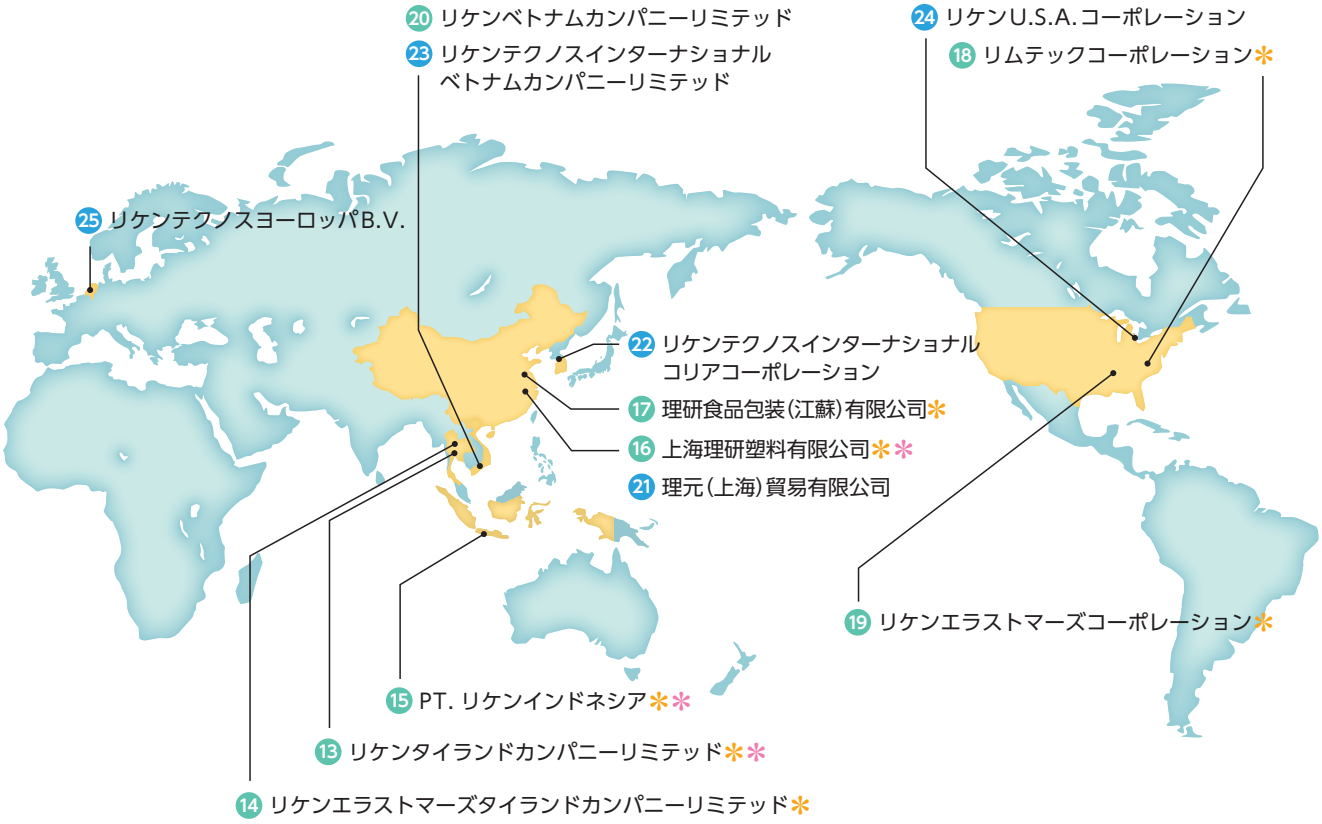
国内・海外ネットワーク

海外には13社の関係会社があり、世界中に高い品質のリケンテクノス製品をお届けしています。

海外

●製造会社　●販売会社
＊ISO9001認証取得　＊ISO14001認証取得

2016年9月1日現在



海外関係会社

⑬リケンタイランドカンパニーリミテッド

⑭リケンエラストマーズタイランド カンパニーリミテッド

⑮PT.リケンインドネシア

⑯上海理研塑料有限公司

⑰理研食品包装(江蘇)有限公司

⑱リムテックコーポレーション

⑲リケンエラストマーズコーポレーション

⑳リケンベトナムカンパニーリミテッド

海外関係会社	主な事業内容	所在地	資本金	出資比率
⑬ リケンタイランドカンパニーリミテッド	コンパウンドの製造・販売	タイ国パトムタニ県	1億2,000万タイバーツ	40%
⑭ リケンエラストマーズタイランドカンパニーリミテッド	高機能プラスチックコンパウンドの製造・販売	タイ国アユタヤ県	3億タイバーツ	100%
⑮ PT. リケンインドネシア	コンパウンドの製造・販売	インドネシア国ウエストジャワ州	10,000千米ドル	61.84%
⑯ 上海理研塑料有限公司	コンパウンドの製造・販売	中国上海市	7,500千米ドル	70%
⑰ 理研食品包装(江蘇)有限公司	食品包装用フィルムの製造・販売	中国江蘇省	13,500千米ドル	92.59%
⑱ リムテックコーポレーション	コンパウンドの製造・販売	米国ニュージャージー州	10,000千米ドル	51%
⑲ リケンエラストマーズコーポレーション	一般コンパウンド、高機能プラスチックコンパウンドの製造・販売	米国ケンタッキー州	20,000千米ドル	75.50%
⑳ リケンベトナムカンパニーリミテッド	コンパウンドの製造・販売	ベトナム国ビンズオン省	10,000千米ドル	100%
㉑ 理元(上海)貿易有限公司	プラスチック製品の卸売・輸出入	中国上海市	5,000千人民元	100% (50%)
㉒ リケンテクノスインターナショナルコリアコーポレーション	プラスチック製品の卸売・輸出入	韓国ソウル市	18億ウォン	100% (16.67%)
㉓ リケンテクノスインターナショナルベトナムカンパニーリミテッド	プラスチック製品の卸売・輸出入	ベトナム国ホーチミン市	100千米ドル	100% (100%)
㉔ リケンU.S.A.コーポレーション	機能性フィルム製品の仕入・販売	米国ミシガン州	1,000千米ドル	100%
㉕ リケンテクノスヨーロッパB.V.	機能性フィルム製品の仕入・販売	オランダ国アムステルダムザウスオースト市	400千ユーロ	100%

※出資比率の欄の(　)内の数字は、間接保有割合(内数)であり、当社の子会社が保有しています。
※リケンテクノスインターナショナルタイランドカンパニーリミテッドは、清算手続中であるため、重要な子会社から除いております。
※リケンテクノスインターナショナルプライベートリミテッドは、清算手続準備中のため、重要な子会社から除いております。

㉑ 理元(上海)貿易有限公司

㉒ リケンテクノスインターナショナルコリアコーポレーション

㉓ リケンテクノスインターナショナルベトナムカンパニーリミテッド

㉔ リケンU.S.A. コーポレーション

㉕ リケンテクノスヨーロッパB.V.

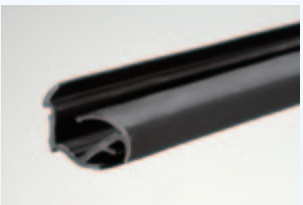
製品のご紹介

リケンテクノスグループの製品は、用途に応じて加工され、暮らしの中で活躍しています。

自動車(外装)製品

●各種モール用コンパウンド
および金属調フィルム

●グラスランチャネル用
コンパウンド



●ワイヤーハーネス用
コンパウンド

●グロメット用・ブーツ用
コンパウンド

自動車(内装)製品

●ドアトリム用
E触感®シート

●ウィンドウ用
フィルム

●シフトノブ用
コンパウンド

●加飾フィルム
RIVIC®

建材・建装材製品

●高級壁装フィルム

●断熱窓枠用
コンパウンド

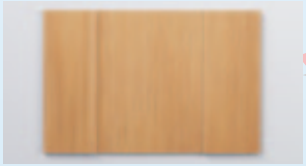
●キッチンなどの
表面化粧フィルム

●ユニットバス壁面用
フィルム

●建装材部材用コンパウンド

手すり

カーテンボックス



腰壁

医療・ヘルスケア製品

●シリンジガスケット用
コンパウンド

●血液回路用
コンパウンド

●枕のクッション材用
コンパウンド

電装材製品

●電力電線用コンパウンド

●機器電線用コンパウンド

●フレキシブルフラットケーブル用フィルム

電子材料製品

●REPTY® DC100

ディスプレイ強化

ディスプレイ保護

3D成形も可能な高硬度フィルム

生活資材製品

●ペングリップ用コンパウンド

●接木用フィルム

●レコード用コンパウンド

●キャップシール用コンパウンド

●かばん用E触感®シート

●冷蔵庫ガスケット用コンパウンド

食品包材製品

●小巻ラップ

●業務用ラップ

●ビッグラップ

●フォーラップ®

●ブルーラップ

●TSUTSUMU

コーポレート・ガバナンス

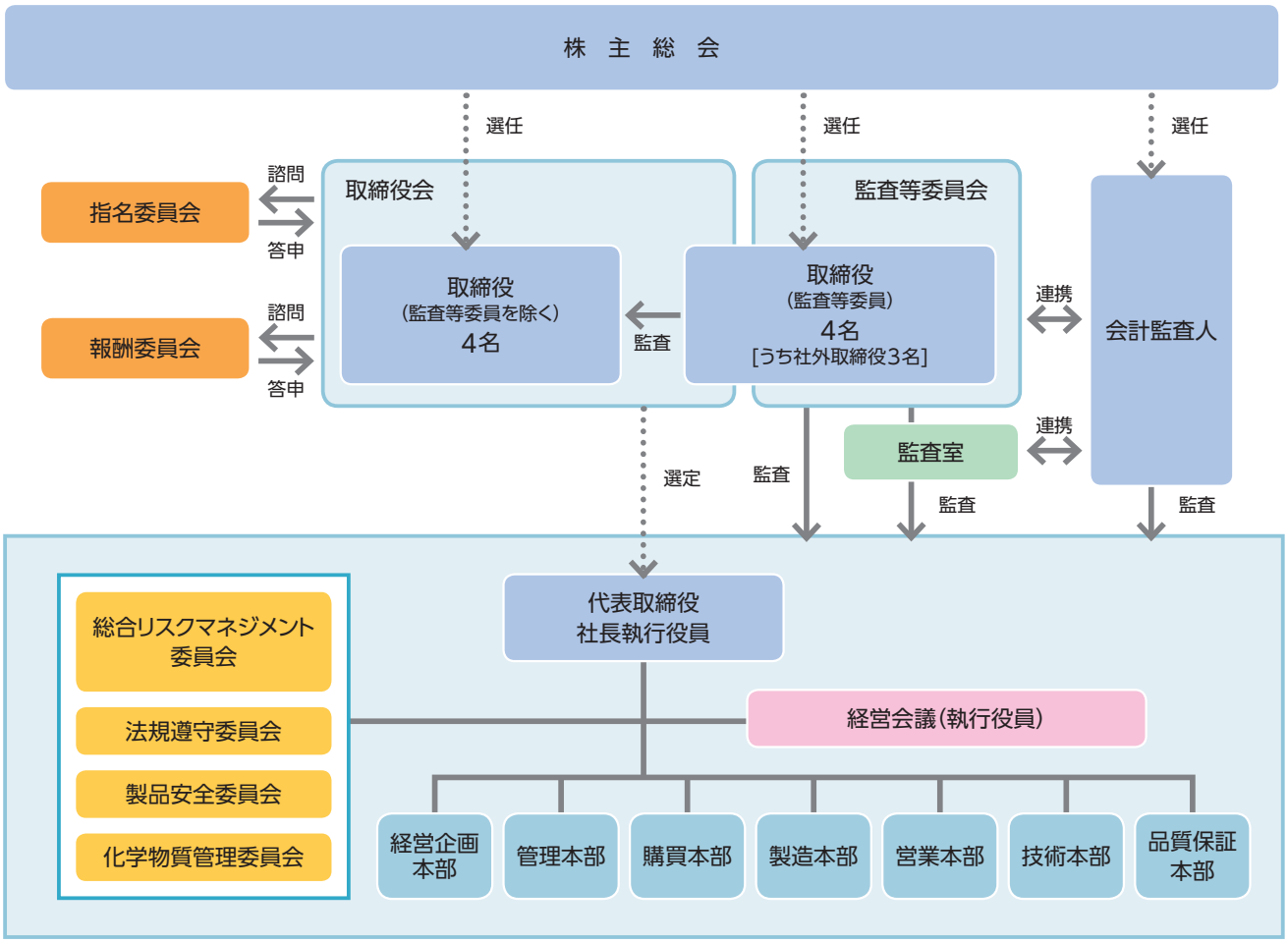
常勤監査等委員メッセージ

リケンテクノス株式会社
取締役 常勤監査等委員
大河内（おおこうち） 義孝（よしたか）

2015年5月に施行された改正会社法により、新たに「監査等委員会設置会社」制度が導入され、当社も2016年6月に、従前の監査役会設置会社から監査等委員会設置会社へと移行いたしました。海外7ヵ国に製造販売拠点を持ち、グローバルに展開する当社としては、海外の投資家等にも理解しやすく、より高い経営監督機能を有する体制を整備すべく取り組んでいます。新たに設置した監査等委員会は、監査等委員である取締役4名のうち3名を独立社外取締役で構成し、また監査等委員の職務を補佐する直轄機関として監査室を設置することにより、監査・監督の実効性を高めています。今後、当社グループが更なる成長をし、より一層の社会的責任を果たすことができるよう、ガバナンス体制の強化に努めてまいります。

コーポレート・ガバナンス体制

当社は、2016年6月24日開催の第87回定時株主総会でご承認をいただき、「監査等委員会設置会社」に移行いたしました。4月の執行役員制度導入を皮切りに、本年度を『コーポレート・ガバナンス元年』と位置づけ、経営の透明性・公正性の向上と機動的・戦略的な経営体制の構築をしてまいります。



※詳細は、「コーポレート・ガバナンスに関する報告書」で開示しています。
　最新版は、リケンテクノスのホームページ、または東京証券取引所のホームページにある「コーポレート・ガンバナンス情報サービス」よりご覧いただけます。

リケンテクノスグループ 企業行動規範

社会的信頼を確保し、企業の社会的責任を果たす基本方針として「リケンテクノスグループ 企業行動規範」を定め、すべての役員および従業員がこれに従って活動を行っています。また、行動規範をカードにまとめて社員一人ひとりが常に携帯し、実践に努めています。

筆頭独立社外取締役の立場から

筆頭独立社外取締役
監査等委員
根本 博（ねもと ひろし）

当社は今期より監査等委員会設置会社に移行し、取締役8名のうち3名を独立社外取締役とする体制にいたしました。監査等委員である独立社外取締役は、株主様、お取引先様、消費者様等の皆様の目線を大切にして、中立の立場から監視、監督、監査等の職務を適正に果たし、ガバナンス体制と内部統制システムの強化を図る所存です。

内部統制システムの基本方針に沿った体制整備

「リケンテクノスグループ 企業行動規範」を確実に実現するために、「内部統制システムの基本方針」を制定しています。詳細は、リケンテクノスのホームページよりご覧いただけます。

取締役・使用人の職務の執行が法令・定款に適合することを確保するための体制

- 代表取締役をはじめとした全取締役は、「リケンテクノスグループ 企業行動規範」および法令・定款遵守がすべての企業活動において基本であることを全役職員に徹底させる。
- 管理本部長を法規遵守委員会の委員長に任命し、その活動内容は取締役会に適宜報告される。また、法務・コンプライアンス室は全役職員に対しコンプライアンス教育を実施する。
- グループ各社は、市民社会の安全や秩序に脅威を与える反社会的勢力および団体とは一切関係を持たない。また、反社会的勢力および団体からの不当な要求に対しては、毅然とした姿勢で臨み決して屈しない。

グループ各社における業務の適正を確保するための体制

- 経営企画部は、「連結子会社管理規程」等に基づき、当社に対する報告および当社における承認が適切に実施されるように当社子会社を管理・監督する。また、これらの管理・監督を通じて損失の危険を管理する。
- 法務・コンプライアンス室は、「リケンテクノスグループ コンプライアンスマニュアル」をグループ各社の役職員に周知徹底させ、グループ各社のコンプライアンス体制の整備および問題の解決に努める。
- 監査室は、定期的にグループ各社の業務監査を実施し、すべての業務活動が法令等に適合することを確認するとともに、経営諸基準に基づいて効率的に運営され、また、経営諸基準が経営目標達成のために適切に機能しているかを点検・評価する。

監査等委員を補助すべき使用人に関する事項ならびにその独立性に関する事項

- 監査等委員の職務を補佐する直轄の組織として監査室を設置し、専任の使用人を複数名配置する。
- 当該使用人の独立性を確保するため、その指揮命令権を専ら監査等委員会に委譲し、取締役（監査等委員である取締役を除く。）のほか、業務執行部門の指揮命令を受けないこととする。また、当該使用人の人事異動・人事評価・懲戒処分等の決定については、事前に監査等委員会の同意を得るものとする。

財務報告に係わる内部統制

「金融商品取引法」に基づき、財務報告に係わる内部統制の整備・運用および評価の基本方針書を作成し、2009年3月期決算から適用しています。
2016年3月期決算におけるリケンテクノスグループの財務報告に係わる内部統制は有効であると評価する内部統制報告書を金融庁に提出しました。

独立役員

リケンテクノスは、東京証券取引所上場規程第436条の2の定めに従い、独立役員3名（社外取締役3名）を選任しています。また、独立社外取締役の中から互選により「筆頭独立社外取締役」を選定し、他の取締役等との連絡・調整を図っています。

内部通報ホットライン

法令・規則違反に関する疑問などを連絡・相談する窓口として内部通報ホットラインを設置しています。また、2015年5月からは、顧問法律事務所による第三者窓口も設置いたしました。相談者が社内で特定されないようにするなど、匿名性を確保し、相談者がいかなる不利益も受けないよう徹底しています。

情報セキュリティ

リケンテクノスでは、アクセス制限・データの暗号化などにより、情報漏洩リスクの最小化に努め、最新のプロテクトシステムを導入しています。また、個人情報保護法およびマイナンバー法[*1]に基づき、社内規程を制定・運用しています。

*1 マイナンバー法:行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律

お客様とのかかわり

リケンテクノスは「科学の力のチャレンジメーカー」として、お客様に満足いただける製品を開発しお届けいたします。
製品の安全性と品質にこだわり、化学物質の管理強化に努めます。

営業本部長メッセージ

リケンテクノス株式会社
代表取締役 専務執行役員
営業本部長
住吉 正充（すみよし まさみつ）

営業本部は、お客様との取り組みを通じて、すべての生活空間に快適さを提供することを目指してまいります。
「建材・建装材」「電材」「車両」「生活資材医療ヘルスケア」「情報電子」「ソリューション」の各ビジネスユニットが、技術本部・製造本部・品質保証本部・購買本部と一体となり、お客様の視点にたち様々な価値を提供するべく努力を続けてまいります。そのためには、マーケットで何が起きているか、起きようとしているか、私たちが敏感でいることが大切です。営業本部の行動規範は「市場の声を聴け」です。

役員メッセージ

リケンテクノス株式会社
上席執行役員
技術本部長
兼 情報電子ビジネスユニットマネージャー
大谷 寛文（おおたに ひろふみ）

技術本部は、お客様と共に「市場の変化を先取りした新製品」を創造すると共に、お客様に感動していただけるカスタマーディライト開発を推進してまいります。全ての分野におけるグローバルIoT化による劇的な社会変革に対応すべく、我々は光のスピードでイノベーション創造製品化を推し進めます。この核となる情報電子新商品ディスプレイ用高強度フィルムREPTY®DC100をベースにグローバルに繋がる次世代製品を創造していきます。そして、光のスピード開発を実現するために、技術本部の総力を発揮するマトリックスイノベーション体制を組み、また多種多様な企業との協業も行い、時代を先取りした革新的製品を生み出してまいります。

リケンテクノス株式会社
執行役員
コンパウンド統括部長
植山 俊一（うえやま しゅんいち）

コンパウンド統括部は、「建材・建装材」「電材」「車両」「生活資材医療ヘルスケア」の4つのビジネスユニットと協働で、お客様とのパートナーシップを大切にし、お客様との接点を増やし、お客様からの要望に迅速かつ的確に対応できるよう取り組んでまいります。
技術本部・製造本部・品質保証本部・購買本部と一体となり、市場の変化を見逃さず、新しい製品・提案の提供で、お客様の発展に貢献したいと考えております。
4つのビジネスユニットとともにお客様との取り組みを通して、それぞれの市場の生活空間に快適さを提供してまいります。

リケンテクノス株式会社
執行役員
業務管理室長
小泉 真人（こいずみ まさと）

業務管理室は、お客様が希望される納期にお応えしてまいります。
当室は、当社営業の窓口としてご注文を承り、製造の工程計画を調整し、お客様のご希望の納期に製品をお納めするために生産、出荷、納品に至るまでの社内外各部門間の調整を行っております。
この数年にわたり段階的に入れ替えを行ってまいりました基幹システムの機能を十分に駆使し、今まで以上に精度の高い業務を迅速に遂行し、お客様の様々なご要望にお応えしてまいります。

リケンテクノス株式会社
執行役員
技術本部 副本部長
兼 研究開発センター長
兼 第3開発室長
杉野 等（すぎの ひとし）

研究開発センターは、「独創的で卓越した樹脂素材の配合加工技術で、企業と人と社会に新たな価値と喜び提供し続けます」というミッションのもと、「カスタマーディライト商品」の研究開発活動を推進してまいります。
特に、重点開発プロジェクトについて、全開発室参画による徹底した議論と徹底した納期管理を実践し、完成度の高い新製品の開発を進めてまいります。また、コンパウンドとフィルム技術を融合した開発やオープンイノベーションも活発化させ、お客様との協働開発プロジェクトも推進していきたいと考えております。

リケンテクノス株式会社
執行役員
フイルム統括部長
登坂 真史（とさか まさし）

フイルム統括部は、フィルム製品に関わる営業活動を統括しています。国内の各ビジネスユニットと海外販売拠点の連携を深め、市場のニーズをいち早く汲み上げ、スピードある対応ができるよう心がけております。そのために、技術、製造、品質保証、購買の各本部とも連携をとり、高意匠、高機能なフィルム製品を開発することで、すべての生活空間に快適さを提供できるよう努めてまいります。

展示会

リケンテクノスでは、より幅広いお客様へ製品をお届けするため展示会への出展を行っております。

「人とくるまのテクノロジー展2016 名古屋」に出展

開催日：2016年6月29日～7月1日
場　所：ポートメッセなごや

展示品紹介

E触感®シート

耐油性、耐摩耗性に優れているため、トップコートが不要です。今回は、インモールド成形への応用例として、ドアトリムを展示しました。今後は、シフトノブなど、内装用への展開をさらに進めていきます。

モール用金属調フィルム

メッキ調、ステンレス調、金属マット調などの繊細な意匠表現が特徴です。ステンレスモールと比較し、30～50%もの軽量化を実現します。

会場内で開催されたピックアップセミナーでは、出展社の製品や技術に焦点を当て、それぞれのテーマに沿った講演が行われ、リケンテクノスも講演を行いました。

営業本部
車両ビジネス
ユニットマネージャー
川嶋 寛（かわしま ひろし）さん

今回は自動車産業の中心である名古屋での展示会に初出展しました。当社ブースには多くの皆様にご来場いただき、昨年の横浜での展示会を上回る来場者数となりました。また、最終日のピックアップセミナーでは「自動車材料の軽量化」について講演を行いました。車体の軽量化に繋がる自動車用エラストマーコンパウンドおよびフィルムの各種取り組みについて紹介しました。
リケンテクノスでは今後も、「車体の軽量化に結び付く製品の開発」「快適でワクワク感のある移動空間の創造」をお客様と一体となり進めてまいります。

お客様とのかかわり

製品の品質保証

品質保証本部長メッセージ

リケンテクノス株式会社
上席執行役員
製造本部長 兼 品質保証本部長
島田 高志（しまだ たかし）

品質保証本部は、品質方針であります「顧客第一、品質第一を念頭に置き、信頼性の高い製品・サービスを提供する」を基に活動しております。
品質保証本部を組織し、世界中のどこでも同じ「リケンテクノス」品質を供給できるグローバル供給体制の強化を図りました。「熱意と徹底で、不良ゼロ・労災ゼロを実現する」ことを目標に、国内・海外の関係会社への品質監査を通じISO9001システムの向上、5Sの推進を実施しました。その結果、品質への意識が高まり、顧客満足度の向上を実現することができました。
また、環境との調和に配慮した製品づくり、環境負荷物質および、廃棄物の削減を推進しております。

リケンテクノスはISO9001の仕組みを活用しています。各生産拠点に品質保証部門を置き、原材料受け入れから製品納入まで全工程の品質管理を徹底しています。さらに、毎月生産拠点・製造課ごとに品質改善委員会を開催し、不良事例および改善対策、改善実施状況の管理を行い、一層の品質向上を目指し努力しています。

また、製品の開発段階より、お客様のご要望を満たし、安定した品質が得られる材料設計に注力し、新素材などの環境対応型製品も積極的に開発しています。

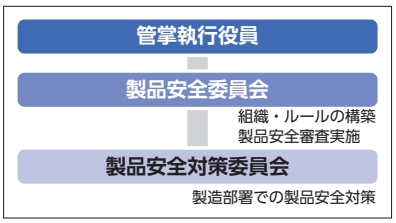
ISO9001登録証
登録日:1998年9月14日 有効期限:2018年9月14日

安全に配慮した製品開発

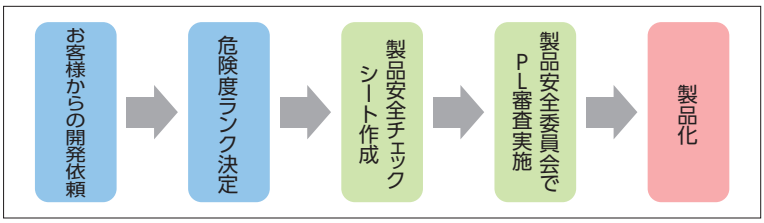
● 製造物責任(PL)対応

メーカーに課せられた使命として、当社設立以来、製品の安全性に配慮してまいりました。また、製造物責任法の施行を機会に、1995年1月にPL問題の発生を防止するシステムを構築するなど、「製品の安全性」への取り組みをさらに強化しています。

● 製品安全組織



● 製品安全審査手順



化学物質の安全性の管理強化

● 規制対象化学物質の混入防止製造ライン

ELV指令・RoHS2指令などの規制対象化学物質の混入を防止できる製造ラインとなっています。

● 化学物質管理委員会の設置

「化学物質管理指針」を設定し、法律で禁止されている化学物質のほか、化学物質審査規制法の第一種・第二種特定化学物質と監視化学物質も使用しておりません。労働安全衛生上、避けるべき化学物質も自主的に削減しています。

クレームへの対応

2015年度は、変化点管理の運用およびその定着、物流クレーム撲滅に向けた協力会社への工程監査の実施、顧客訪問頻度を上げることでの潜在不具合掘り起こし、重要項目での「指差呼称」推進と指導、QCパトロールの精度アップ等により、重大な品質クレームはありませんでした。

株主様とのかかわり

組織統治

株主の皆様のご支援に対し厚く御礼申し上げますとともに、何卒一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

株主総会に関する取り組み

リケンテクノスの株主総会は、より多くの株主様に出席していただけるよう、株主総会が集中する日程を避けて開催しています。また、株主総会の議題を十分に検討いただくため、招集通知の早期発送と発送前のWEB開示を行っています。2016年の株主総会より、議決権行使を円滑に行っていただく取り組みとして、インターネットによる議決権行使も可能にしています。

配当に関する基本方針

リケンテクノスは、中長期的な企業価値の向上を通して株主還元を図ることを経営上の重要課題の一つと位置付けており、配当については、連結配当性向30%程度を一つの目途とした上で、今後の事業投資と自己資本の充実等も勘案し、安定的な配当を行うことを基本方針としています。この方針に基づき、2016年3月期の期末配当金については、1株当り5円とし、中間配当金を含めた年間配当金は、1株当り1円増配の10円とさせていただきました。

基準日	1株当り配当金		
	中間	期末	年間
2012年3月期	4円00銭	5円00銭	9円00銭
2013年3月期	4円00銭	5円00銭	9円00銭
2014年3月期	4円00銭	5円00銭	9円00銭
2015年3月期	4円00銭	5円00銭	9円00銭
2016年3月期	5円00銭	5円00銭	10円00銭

情報開示について

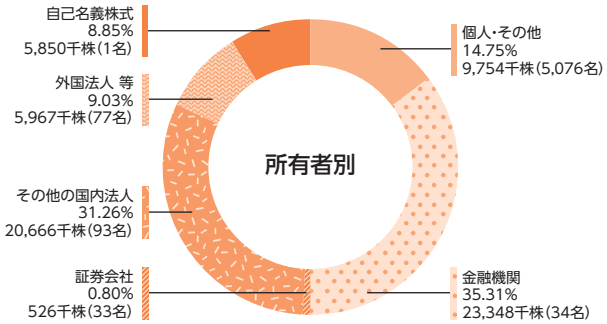
リケンテクノスは、常に株主や投資家の皆様の視点に立った迅速、正確かつ公平な会社情報の開示を適切に行っています。皆様に事業活動の状況や戦略などへの理解を一層深めていただけるよう、東京証券取引所の適時開示基準以上の積極的開示に努めています。
また、当社ホームページに財務・IRに関するページを設け、決算短信、有価証券報告書、その他の適時開示資料などを情報開示後(プレスリリース)、速やかに当社ホームページにも掲載しています。

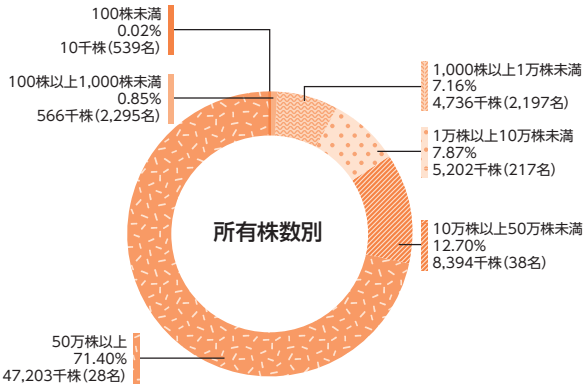
株式状況・株主の構成(2016年3月31日現在)

株式の状況

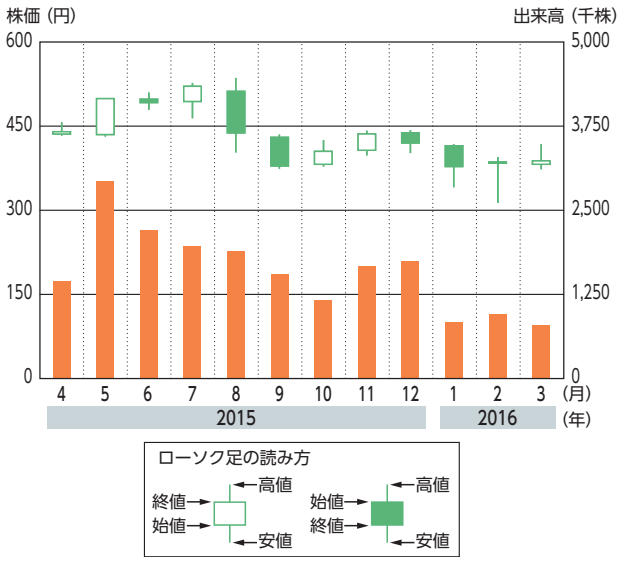
発行可能株式総数	236,000,000株
発行済株式の総数	66,113,819株
株主数	5,314名

所有者別・所有株数別株式状況





株価および出来高の推移



お取引先様とのかかわり

リケンテクノスでは、サプライチェーンを含めたより良い環境システム、品質システムの構築に努めています。
また、コストダウンのために購買の窓口を広げ、競争力のある原料調達に努めています。

購買本部長メッセージ

リケンテクノス株式会社
執行役員
購買本部長 兼 資材部長
杉江（すぎえ） 剛（たけし）

購買本部は、資材・物流に係わる多くの物品に関して、お取引先様からご提案とご協力をいただきながら活動しています。その要求品質、安定供給、最適なコスト、そして安全・安心等をチェックした上で、お取引先様とGive and TakeそしてWin-Winの関係を築きあげ、中長期的なお取引ができるように努めています。また、各海外拠点の局所最適とリケンテクノスグループの全体最適を視野に入れながらグローバル調達も推進しています。新3ヵ年中期経営計画の経営方針である「ACT NOW! ACT TOGETHER! 2018」のもとで、お取引先の皆様と更なる関係強化を図っていきたいと願っております。

当社の購買方針について

❶ 公正な購買取引と選定
対等な立場で取引を行います。複数購買を原則とし、公正公平な参入機会を提供します。

❷ パートナーシップの構築
お取引先様と良好な人間関係を保ち、人間的尊厳を重視し不当な差別はいたしません。

❸ 関連法令の遵守と自主管理
お取引先様との機密情報の取り扱いに留意し、社会的規範や関連法令を重視し、リケンテクノスグループ グリーン調達基準に基づき購入を行います。

❹ お取引先様の状況
購入にあたり、特に「技術力」「競争力」「経営力」を考慮しています。

当社の購買体制について

当社の購買業務は、本社購買本部の資材部と、各工場の業務課が行っています。

購買担当

資材部 集中購買による原材料・原反・燃料・包装資材・高額設備関連など。

各工場の業務課 消耗品・貯蔵品・設備関連など。

サプライチェーンマネジメント

お客様により安全で信頼性のある製品をお届けするため、お取引先様各社の協力を得て、サプライチェーンを含めたより良い環境システム、品質システムの構築に努めています。2015年度は、13社の原材料購入先、委託加工先、運送委託先、産業廃棄物処理委託先の環境を含めた品質監査を実施し、改善にご協力いただきました。

リケンテクノスグループ グリーン調達基準

環境に配慮した製品を提供していくためには、環境負荷のより少ない原材料や副資材を調達することが不可欠です。当社は2004年度に環境関連物質に関する「グリーン調達基準」を策定し、ホームページ上に公開しました。さらに、2009年8月、関係会社もこの基準の範囲に加え「リケンテクノスグループ グリーン調達基準」としました。
また、文具・OA機器等の事務用品については「グリーン購入基準」を策定し、可能な限りエコ商品の購入を促進しています。
※詳細は当社ホームページをご覧ください。

適用範囲

当社が調達する樹脂、可塑剤、安定剤、充填剤、強化剤、着色剤、フィルム基材、塗工剤、接着剤など直接製品を構成するものや、包装材、離形紙などの副資材など。

要求事項

a.お取引先様における環境管理システムの構築
b.環境関連物質の管理等に関する環境パフォーマンスの達成
c.当社が指定した環境関連物質に関する調査および報告。「RoHS2* 10物質の測定データ」、「化学物質含有情報シート」の提供

運用

原材料・副資材は、環境関連物質中の含有禁止物質が含まれていない、あるいは管理すべき物質の含有量が把握されているものを調達していきます。また、評価結果により、お取引先様に対しより安全で環境負荷の少ない原材料・副資材への改善をお願いする場合があります。

グリーン購入基準

- 適用範囲

当社の本社・支店・営業所・工場・研究開発センターで購入または借り受ける紙類等の文具、コピー機・パソコン等のOA機器や自動車等。

- 要求事項

「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」(グリーン購入法)に準じた環境負荷が少ない、有害物質を含有しない等の基準を満たすこと。

- 運用

お取引先様には、積極的にエコ商品を紹介いただけるようお願いしています。

* RoHS2指令:欧州において有害物質の電気・電子機器への使用を制限するため2006年から施行された指令

物流における環境への取り組み

- 製品納入の帰り車の利用による実車率の向上を目指します。
- 物流拠点の統廃合を行っていきます。
- 省エネ法による特定荷主としての義務を果たしていきます。中長期的にみてエネルギー消費原単位を年率1%低減を目標にしています。
- お客様からのパレットの回収による購入枚数の削減、森林資源保護のためプラスチック製への変更を推進しています。
- グリーン物流促進事業へ参加しています。

品質安全活動

- 提携運送会社によるISO9001の認証取得、Gマーク(安全性優良事業所)の認定取得を推奨しています。

亀山急送株式会社

グリーン経営認証
登録日:2007年1月19日　有効期限:2017年1月18日

ISO9001登録証
登録日:2003年5月9日　有効期限:2018年5月8日

株式会社モテギ

Gマーク登録証
登録日:2007年12月20日　有効期限:2019年12月31日

ISO9001登録証
登録日:2000年3月10日　有効期限:2018年9月14日

ISO14001登録証
登録日:2004年10月29日　有効期限:2018年9月14日

- 輸送量とCO_2発生量

輸送	2013年度結果	2014年度結果	2015年度結果
輸送量 (t・km)	28,189,000	25,248,700	26,898,851
CO_2発生量 (t-CO_2)	4,911	4,400	4,669

地域の皆様とのかかわり

リケンテクノスグループでは、地域社会との共生のために様々な取り組みを行い、事業活動へのご理解をいただいています。国内と海外での取り組みについてご紹介します。

国内での取り組み

ゴミ拾い

三重工場

三重工場では、年2回工場周辺のゴミ拾いを行っています。

群馬工場

群馬工場では、安全パトロール時に工場周辺公道のゴミ拾いを行っています。(隔月)

埼玉工場

埼玉工場では、岡部駅までの線路沿いゴミ拾い(年2回)と、工場周辺ゴミ拾い(月1回)を行っています。

研究開発センター(東京)

高校生による工場見学

三重工場

地元高校生による工場見学を毎年実施しています。

埼玉工場

近隣自治会の夏祭りの協賛

4月 5月 6月 7月 8月 9月

SINCE 2015.04

三重工場

亀山市納涼大会への協賛及び参加

研究開発センター

地元、南六郷二丁目会の祭礼に協賛

工場周辺の交通巡視

毎年2回、工場周辺で安全速度・一時停止・シートベルト着用確認・通行禁止区間の確認などの交通巡視を行っています。

三重工場

交流　環境　貢献　次世代

群馬工場

太陽光発電による再生可能エネルギーの使用

三重工場

かめやま会故(エコ)の森環境整備活動への協賛及び森林整備ボランティア活動への参加(年3回)

三重工場

亀山市駅伝大会への協賛及び参加

10月 11月 12月 1月 2月 3月

名古屋営業所

名古屋商工会議所を通じての児童養護施設等へのクリスマスプレゼント

埼玉工場

ふかやシティハーフマラソンへの協賛及び参加

埼玉工場

深谷地区防火安全協会および深谷市消防本部主催「自衛消防隊屋内消火栓操法指導会」への参加

埼玉県深谷市イメージキャラクター「ふっかちゃん」

蒲田消防署主催「自衛消防訓練審査会」への参加

リケンテクノス研究開発センター自衛消防隊は、見事3位入賞しました!

研究開発センター(東京)

三重工場

ハンドルキーパー運動推進モデル事業所に指定

インターンシップ

埼玉工場 三重工場

未来を担う高校生のために職場体験・インターンシップを積極的に実施しています。
埼玉工場・三重工場ともにフィルムの製造工程、および設備保全の実習などを体験していただきました。
2016年1月に実施した埼玉工場での職場体験記をご紹介します。

埼玉工場　熊谷工業高等学校　電気科　生徒代表

最初は不安でしたが、社員の方々が明るく優しく対応してくださり、すぐに職場の雰囲気に慣れることができました。1日目は、フィルムの製造工場を見学しました。フィルムの梱包は、単純そうに見えて難しかったです。2日目は、エンジニアリング部でモーターのオーバーホールを行い、それに電気配線をして動かす作業を行いました。また、アーク溶接も体験し、多くのことを学びました。3日目は、電気配線の動作チェックや、工場全体の見学を行いました。この3日間のことを今後、役立てたいです。

埼玉工場　熊谷工業高等学校　機械科　生徒代表

工場という職場について考えるきっかけができ、大変勉強になりました。今まで工場に対し漠然としたイメージしかなく、具体的な仕事内容を考えたことがありませんでした。しかし、インターンシップでイメージが固まり、工場で働いてみたいという気持ちがより強くなりました。
どういった部署が自分の適性に一番合っているのかをよく考え、今後の就職活動にも活かしていきたいと思います。
インターンシップ中は簡単な作業でも気を抜かないように心掛けました。常に事故の危険性が伴うからです。とても働きがいのある3日間でした。

地域の皆様とのかかわり

海外での取り組み

海外での取り組みとして、米国のリケンエラストマーズコーポレーションとタイ国のリケンタイランドカンパニーリミテッドの取り組みをご紹介します。

役員メッセージ

執行役員
リケンエラストマーズ
コーポレーション
取締役社長
梶山 学之（かじやま がくゆき）

リケンエラストマーズコーポレーションは2006年の設立以来、地域との密着に力を注いでおります。なぜなら、企業は単独で成り立っているものではなく、間違いなく地域や社会との良い関係の上で運営ができるものだからです。米国で生活をしていると、日本以上にそのことを強く感じます。地域の発展は人材の成長にも繋がり、それにより企業もまた活性化します。この循環により健全な社会が維持されると考えております。具体的には、ユナイティッドウェイという有名な慈善福祉団体への募金活動を会社および従業員が行っております。また教育委員会のメンバーである従業員は、地域の学校を支えています。更には学生たちに企業の活動内容を教えるキャリアプログラムへも参加しています。企業は人により成り立っていますので、地域への貢献は企業としてあるべき姿だと考えております。

リケンエラストマーズコーポレーションの取り組み

リケンエラストマーズコーポレーションでは、社員が様々な活動を通じて、地域社会に貢献しています。
今回は、ローラ・トーマスさんとリンダ・ケラーさんの活動をご紹介します。

人事部 マネージャー
ローラ・トーマスさん

購買・営業サポート
スペシャリスト
リンダ・ケラーさん

進路指導活動（キャリアデイ）
毎年、リケンエラストマーズは、ペンブローク小学校で行われる小学生向けのキャリアデイに参加しています。進路指導活動の間、3～6年生の生徒は様々な仕事について地域の大人たちから学びます。写真は、リケンエラストマーズコーポレーションおよびリケンテクノスの製品を生徒たちが見ている様子です。製品を見せることに加え、もの造りにおける様々な仕事や、その仕事に求められる訓練や教育について説明しました。

子供たちに説明するローラ・トーマスさん

ゲートウェイアカデミーでの活動
ホプキンスビルの技術革新に向けたゲートウェイアカデミーに、ローラ・トーマスさんが、評価委員として招待されました。プロジェクトを通して工学や数学、国語が学べるプレエンジニアリングアカデミーが新設され、橋梁設計プロジェクトを評価するため招待されました。また、学校の指導要領の一環として、クリティカルシンキング、健全な判断力、仕事人としてのモラル、協調性を身に着けられるプログラムが設けられており、ローラ・トーマスさんは、生徒たちが職場で成功をおさめるために必要な良識を身に着ける手助けをしています。

中央に座っているのが、ローラ・トーマスさん

ローラ・トーマスさんとゲートウェイアカデミーの生徒たち

教育委員会
リンダ・ケラーさんは、ケンタッキー州ホプキンスビルにある、クリスチャン郡の教育委員会の委員を務めて、8年目になります。直近3年間は委員長を務めました。今年の11月、第3期にむけた再選選挙を行います。教育は、地域社会にとって極めて重要です。「クリスチャン郡の子供たちに、質の高い教育を施すための政策および計画を支えるために働くことは、市民としての自分の務めだと信じています」と、リンダ・ケラーさんは、語ってくれました。

左から4番目がリンダ・ケラーさん、リケンエラストマーズコーポレーションの購買部兼営業支援部のスペシャリスト

役員メッセージ

上席執行役員
リケンタイランドカンパニーリミテッド
取締役社長
田坂 道久（たさか みちひさ）

リケンタイランドカンパニーリミテッドの奨学金制度が設けられてから、今年で7年目になります。将来を担う子供たちの学業の助けとなるよう設立された制度です。若い時こそ、勉強するチャンスを多く与えられるべきであり、この奨学金が少しでもお役に立てれば光栄です。受賞された方は、是非、一生懸命に学業に励んで、立派な社会人になって、タイ国の発展に貢献してください。また、タイ国と日本の架け橋になるだけでなく、海外へいろいろなメッセージを発信できる世代の一員になることも願っております。今回奨学金を受けとられた方全員に、自分の夢について手紙形式で書いていただきましたのでご紹介します。

リケンタイランドカンパニーリミテッド奨学金制度

社員の子供たちの勉強を支援するために、リケンタイランドカンパニーリミテッドでは、奨学金制度を設けています。
この制度は今年で7年目を迎え、2016年度は10名に奨学金を付与しました。

リケンタイランドカンパニーリミテッドの2016年度奨学金を受けた皆さん

ワリントーン プラシャーノーク ちゃん

小学 2年生
品質保証係員
ウティッス プラシャーノークさんのお子さん

ヌンルタイ ゴーンシャーン ちゃん

小学 3年生
一般用製造員
エカラック ゴーンシャーンさんのお子さん

ゴーンワリン ヌァムトーン ちゃん

小学 5年生
物流係員
スシャート ヌァムトーンさんのお子さん

ナタノン プントー くん

小学 5年生
製造員
マノーチ プントーさんのお子さん

ウィパーウィー プーウィパーク ちゃん

小学 6年生
医療用製造員
ウィルット プーウィパークさんのお子さん

サヤーモン カムディー さん

中学 1年生
医療用製造員
タナーウット カムディーさんのお子さん

ナッシャヤー ウォンジャラーンターウォーン さん

中学 2年生
総務係員
スナンター チャイチャラーンさんのお子さん

キリンラダー サンマニー さん

中学 2年生
物流係員
チュターマート クワンターウォーンさんのお子さん

アンティカー アンカハード さん

高校 1年生
エンジニアリング課員
シューシット アンカハードさんのお子さん

ラッサワディー カッドファン さん

職業 専門学校
エンジニアリング課員
パーンレーカー カッドファンさんのお子さん

受賞者からのメッセージ

- リケンタイランド社様の奨学金をいただき、大変自慢に思います。
  15人の候補者に対する10人なので、自分の成績では受からないかなと思いました。
  奨学金が受けられると母が教えてくれると、とても嬉しいです。
  自分はとても運が良かったです。
  奨学生に値するように、一生懸命に勉強致します。
  この奨学金を貯金しておき、将来の自分の勉強のために使います。
  小学校から中学校まで、私は3回リケンタイランド社様の奨学金を受け取って来ました。
  リケンタイランド社様、大変有難うございました。
  奨学金をいただいた分、私は真面目に勉強し、ずっと良い行動をします。
  次のページの絵を描いてみました。
  ナッシャヤー ウォンジャラーンターウォーン

（現地社員による日本語訳です）

2016年奨学金付与式

地域の皆様とのかかわり

次世代の応援

リケンテクノスは、次世代を応援するため、「夢らぼ」という番組を2015年4月より制作しています。番組でご紹介する学生たちは、皆エネルギーに満ち溢れ、高い志を持っています。彼らを突き動かすものは、何なのか?夢を抱くに至ったそのルーツとは何なのか?そこに迫っていきます。

彼らの夢は、まだ道半ばです。試行錯誤を繰り返しながら何とか進んでいく様は、まさに「夢の実験室」。
どんな未来を切り開いていくのか、彼らの活動から目が離せません。リケンテクノスは科学の力のチャレンジメーカーとして、これからも頑張る学生を応援します。

粕谷 昌宏（かすや まさひろ） くん

①夢らぼに出演しての感想

特徴的な活動をしている人を早くから見つけ、積極的に紹介することは非常に有意義だと思いました。特に活動初期では知名度を上げることに苦労するので、このような形で紹介してもらって嬉しく思っています。

②今の活動、今後の活動

今後の最も大きな活動は、10月に行われる世界初のサイボーグオリンピック「Cybathlon」です。
オリンピック、パラリンピックに続く第3の国際スポーツイベントとなるこの大会は、パラリンピックでは用いることのできない、コンピューターやモーターの支援を使うことができます。それにより、例えば足が動かない人が自転車を漕いでレースをするなど、これまで競技に参加することが考えられなかった方々にも参加いただけるイベントとなっています。メルティンMMIはCybathlonの義手部門とバイクレース部門に出場予定となっており、これに向けて日々開発を行っています。
今年にはVCからの投資も受け、IBMのイベントに基調講演として招待されたり、新聞一面記事、TVでの特集などメディア露出も増えました。CybathlonにはNHKによる半年間の密着ドキュメンタリーも入っています。
今年はCybathlonに加え、生体信号で機械を自由に動かせるようになるデバイスの販売も予定しており、より視野を広げて意欲的に活動していきます。

岩澤 直美（いわざわ なおみ） さん

①夢らぼに出演しての感想

夢らぼでは、私の想いや活動のお話をさせていただく貴重な場をいただきました。限られた時間の中で、より多くの方に考えていることを発信するということで、自分自身のことを振り返ることができました。
「なぜこのように考えるようになったのか」「幼い頃の私は、どんな人だったのか」そういったことを改めて考えるきっかけになり、そういった経験があったから今の自分がいるのだと、嬉しく思うことができました。また、自分のことだけではなく、この出演をきっかけに、ここで経験をお話ししているいろんな人たちと繋がることができました。
私の知らないことや、私とは違った価値観やビジョンを持つみんなと交流することはとても貴重な経験です。今後もそういった人たちとの繋がりを大切にしながら、活動していきたいと思います。

②今の活動、今後の活動

私には、夢があります。「多様性に寛容な、違いを愛せる社会をつくる」ことです。
私が代表を務めるCulmony（カルモニー）では、このビジョンのもと、子どもを対象に英会話×多文化理解と、身近な国際交流機会を提供する非営利の活動を500名以上に行い、独自の多文化理解プログラムを子どもたちに届ける家庭教師事業も展開してきました。現在の日本の社会は、異文化の衝突で溢れていて、まだまだよりよくできるところがたくさんあります。
Culmonyとして多様性を愛することができる子どもたちを育てる教育を拡げることで、グローバル社会の中で他者と協働しながら、より豊かな日本社会をつくる人材の育成ができると信じています。しっかりとマネジメントできるように成長し、大学卒業後もこれを拡げるために尽くしていきたいと思います。

お二人の活動についてはこちらから　www.yume-lab.jp

今までに出演された学生の皆さん

従業員とのかかわり

リケンテクノスグループでは、社員一人ひとりが「仕事を通じて成長する」ことを目指しています。
また、より良い環境で働くことができるよう様々な制度を設けています。

管理本部長メッセージ

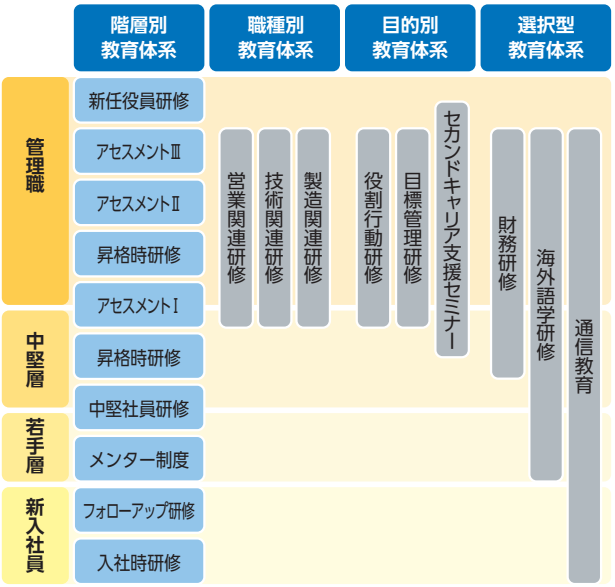
リケンテクノス株式会社
取締役 常務執行役員
管理本部長 兼 経営企画本部長
入江 淳二（いりえ じゅんじ）

2016年度からスタートした新3ヵ年中期経営計画では、主要課題のひとつに「戦略的な人材育成による企業基盤の強化」を掲げています。
2016年3月期連結決算における海外売上高比率は47%、さらに本中期経営計画期間中に同比率を55%以上まで高めることを展望している当社グループにおいて、「グローバル人材育成」は特に重要な経営課題です。
ポストチャレンジ制度、若手社員の登用等活力ある組織風土の醸成に向けた仕組みづくりを推進し、グローバル展開をしっかり支える人材育成を実現してまいります。
「企業の最大の資産=人材」であり、人材育成の成否が当社グループの企業価値向上を左右する、との思いで取り組んでまいります。

人材育成の考え方

企業の成長は、社員一人ひとりの成長によって支えられています。「私たちは応援します!自ら成長しようと努力する人を!」をスローガンに、努力している社員を応援し、社員も会社も成長していく相互成長の関係を築ける体制づくりを行っています。その施策として、自己申告制度を導入して一人ひとりの志望・要望と元気度などを面談を通じて把握し、より成長できる環境づくりにつなげています。また、会社の求める人材像として「自立・創造・実践できる人」を掲げ、各人が役割に応じた行動を確実に実践するように人事制度上も役割行動考課を導入し、「仕事を通じて成長する」ことを図っています。これらの活動を通じて、社員一人ひとりが成長し、会社が目指している高付加価値型企業基盤の確立の実現へつなげています。

● リケンテクノス教育プログラム



経営層の育成

当社では、経営層の育成にも力を入れています。2015年度は、多様な考え方を知り、「使える経営スキル」を習得する機会を提供すべく、グロービス・マネジメント・スクールへの派遣も実施しています。

経営企画部 経営管理グループ グループリーダー
関根（せきね） 幸博（ゆきひろ） さん

経営企画部への配属となり、経営に係わる基礎知識習得のため、グロービス・マネジメント・スクールにて、3つの講座を受講しました。「クリティカルシンキング講座」では「今、何を論じるべきか」を常に忘れずに議論を行うことの重要性を、「アカウンティング基礎講座」では会社財務諸表の見方や管理会計を学び、現在の仕事に非常に役立っています。そして、最も興味深く実際に受講して楽しかったのが、「マーケティング基礎講座」です。市場環境の分析方法や戦略立案等の講義は、まさに「目から鱗」の連続でした。休日の予習と復習は、大変しんどいものでしたが、今の仕事に生かせる学びが非常に多く、有意義な9ヵ月間だったと思っております。

グローバル人材の育成

● 海外語学研修

当社ではグローバル人材の育成を目的とした海外語学研修、社内英会話教室等を実施しています。

リムテックコーポレーション プラントコーディネーター
恒次（つねつぐ） 明（あきら） さん

2016年6月に米国リムテック社への赴任が決定したことを受け、同年5月に4週間、ボストンの「The New England School of English」で語学研修を受講し、日本語無しの生活を経験しました。授業は、文法、会話、作文の3コマで9時から15時過ぎまで行われます。エッセイを書くことも求められ、初めての体験を数多くすることができました。このような貴重な機会をいただき、感謝しています。今後のリムテック社勤務にこの経験を生かしていきたいと思います。

● 社内英会話教室

社内英会話教室を各拠点で実施しています。「英語に対する苦手意識をなくしたい」、「TOEICのスコアを上げたい」、「実践的な英語表現を学びたい」といった従業員の様々なニーズに対応し、初心者から上級者まで楽しく続けることができる内容になっています。

埼玉工場での社内英会話教室

三重工場での英会話教室

本社での社内英会話スクール

従業員とのかかわり

「もの造り」の継承

リケンテクノスでは、海外のどの生産拠点でも同じ品質の製品を生産できるよう、海外関連会社の現地スタッフへの教育を実施しています。2015年より開催している「製造グローバル発表会(リケンプロダクションサミット)」は、「リケンテクノスグループの国内、海外の5S、生産改善活動の情報共有を行うと共に、各拠点の取り組みを学ぶことで、グループ全体の競争力を高めること」を目的としています。国内外の製造部門に関わる社員が一堂に会し、自らの意思で、自らの知恵を絞って実行した改善や5S活動の成果を発表するという画期的な試みです。回を重ねるごとに友好の輪が広がり、情報共有化が進み、リケンテクノスグループ全体のレベルアップに繋がっています。今後も継続して実施いたします。

リケンプロダクションサミット発表の様子

三重工場 コンパウンド製造一課
服部(はっとり) 成孝(なりたか) さん

最優秀賞

この度、第2回リケンプロダクションサミットにおいて、我々三重工場 コンパウンド製造一課が最優秀賞を受賞し、大変光栄です。
リケンプロダクションサミットでは、自分たちの活動をどのように伝えるかを考え、生産性改善・5S活動の発表を行いました。
プレゼンの練習では、幾度もダメだしがあり、何度も発言内容を変更しました。その結果、課内の取り組みを伝えることができ、かつ我々が1年間行ってきた活動が評価されたと思っています。
これからも、新3ヵ年中期経営計画の経営方針「ACT　NOW!　ACT　TOGETHER! 2018」を合言葉に、課員が一丸となり、スピードを持って全力で活動に取り組んでいきます。

三重工場 コンパウンド製造一課
左から、服部成孝さん、豊田光さん、
常盤社長、澤田浩也さん、三村公二さん

リケンエラストマーズコーポレーション
製造部 ジェネラルスーパーバイザー
ジェラルド・ベネット さん

優秀賞

最初に、リケンプロダクションサミットにリケンエラストマーズコーポレーションを代表して参加する名誉を与えてくれた梶山社長とマネージャーの皆様に感謝を申し上げます。
我々は、今回優勝した三重工場コンパウンド製造一課におめでとうと言いたいです。私は、各拠点のプレゼンテーションが2015年から2016年にかけ、それぞれ素晴らしい進歩を遂げたと思いました。我々のビジネスをけん引するものが、各拠点の絶え間ない改善による力強い進歩であることは明白です。
私たちはチームとして一緒に大きなことを成し遂げることができます。今後、国境を超えたチームワークは我々の強みになると信じています。

役員メッセージ

執行役員
PT.リケンインドネシア取締役社長
佐藤 敏幸（さとう としゆき）

2014年から開催されているリケンプロダクションサミット発表会では、PT.リケンインドネシアの製造部門が2014年に2位、2015年にBest Impression賞を受賞しました。また、昨年から始まった技能オリンピック（ブレンダー部門）では金メダルをいただいており、社員へのモチベーションアップに繋がっております。また、他の拠点に無い強みとしては、2010年より日本へ製造担当者の定期研修を行っています。今回で既に4回目の実施となり、日本国内のマザー工場への研修制度の継続によって、確実に製造レベルが上がり、品質、生産性共に改善してきております。

PT.リケンインドネシア　製造課長
バンバン・スティアワン さん

ベストインプレッション賞

年に1度開催される“リケンプロダクションサミット”は、個人的にもPT.リケンインドネシアにとっても、総じて全体的にたいへん有意義です。この取り組みを通して、多くの知識と経験を得られます。実は、この取り組みは単なるコンテストとしてだけではなく、我々の見識を広げるものだと考えます。アメリカ、中国、日本、そしてタイ国といった、異なる文化的背景を持つ、様々な国から来た方と会いました。さらに、PT.リケンインドネシアでは知りえなかった、“エラストマー”や“フィルム”の製造工程を知りました。

※本人による日本語のコメントです。

左から、常盤社長、PT.リケンインドネシア発表者のバンバン・スティアワンさん、ウイナントさん

子育て支援

● 育児休業制度

最長2年間の休業ができます（男性も取得可能）。さらに育児休業の最初の3日間は有給としています。現在、2名の社員が利用しています。

● 育児短時間勤務制度

育児をしている社員が、1日6時間まで勤務時間を短縮できます。家庭や保育園などの個別事情に応じた働き方が選べます。小学校入学前まで利用できる制度です。現在は2名の社員が利用しています。

社員の多様性への対応

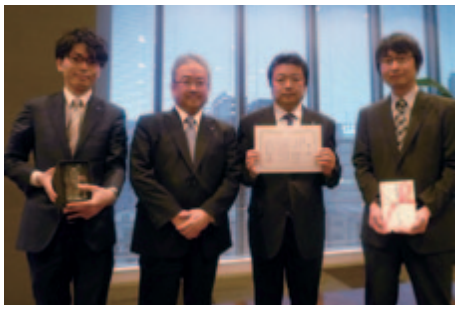
当社は社員の多様性、人格、個性を尊重し、人権および雇用機会均等などにも配慮をしています。当社では女性が活躍できるような様々な取り組みをしており、現在、女性管理職もおります。また、外国人の採用も積極的に行っています。

再雇用制度

定年（60歳）を過ぎた従業員の更なる活躍は、会社にとっては技能伝承の面で、社員にとっては生活の安定という面で、双方にメリットがあります。そこでリケンテクノスでは2006年度から組合員層、管理職層を対象にした再雇用制度を導入しています。

表彰制度

リケンテクノスでは表彰規程や職務発明規程を設けています。業務の効率化や企業体質の改革、社員のモチベーション向上につながる改善提案や、新技術の発明などに対して表彰を実施しています。



社長賞授賞式の様子。
左から、研究開発センター 第2開発室 第1グループ 大澤英夫さん、常盤社長、電材ビジネスユニットマネージャー 大工原敬次郎さん、埼玉工場 コンパウンド製造課 佐藤敦志さん

棚橋浩輔さん

従業員とのかかわり

経営理念の浸透

経営理念である「リケンテクノス ウェイ」を社員に浸透させるため4つの制度を設けています。そのうちのひとつ、「サンキューカード」制度は、社員同士で感謝の気持ちを表すもので、海外拠点でも導入が進んでいます。サンキューカードを多くもらった社員および、多く贈った社員への表彰も行っています。

三重工場の輿水工場長から表彰される三重工場 フイルム製造課の大崎洋充さん
2015年度でサンキューカードを一番多く贈られました

安全衛生活動

● 安全衛生の考え方

当社は、人間尊重を基本とし労働安全衛生を企業活動の最も重要な基盤のひとつと考え、健康で安全な職場環境の維持向上に努めます。OSHMSに沿った労働安全マネジメントシステムにて活動しています。

● 「リスクアセスメント」による危険・有害源撲滅活動の定着

2003年にリスクアセスメントを導入後、職場に潜在している危険・有害要因を排除・隔離し、リスクを低減させる未然防止型の改善活動が定着しました。「災害ゼロ」から「危険ゼロ」となるように、安全意識向上と危険改善・システム改善の活動を全員参加で進めています。

● 活動の見直し

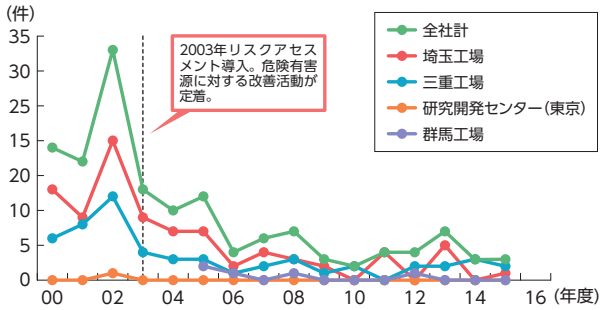
2015年度は、「災害ゼロ」を目標に、リスクアセスメントはもとより、安全意識向上のためアンケートを実施・危険体験機器を利用しての安全教育・指差呼称の見直し等の活動を全員参加で進めました。

2016年度は、「災害ゼロ」に向け、化学物質を含めたリスクアセスメントをさらに推進。指差呼称の習慣化・始業前のストレッチ体操の徹底等を進めます。

● 労災件数

最近の労災件数は、2013年度6件、2014年度3件、2015年度3件の状況です。

● 全社労災トレンド(休業+不休)



危険体験機器を利用しての安全教育

危険体験機器を利用しての安全教育

● 緊急事態対応

各サイト・各部門で緊急事態対応一覧表と作業標準を作成し、定期的に訓練を実施しています。特に、化学物質や油の社外への流出防止及び消防法危険物起因の火災予防を最重点課題として取り組んでいます。2015年度は屋内計量槽からの可塑剤漏れがありましたが、工場外への流出は無く、訓練どおり対処されました。

CSRへの理解

2016年入社の皆さん

リケンテクノスの将来を担う新入社員の皆さんに、CSRについての理解を深めてもらうため、
入社3ヵ月後のフォローアップ研修にて、簡単なレクチャーを実施しています。
同時にリケンテクノスグループの一員としての自覚を持って働いてもらうため、
リケンテクノス ウェイのコアバリューにある「仕事を楽しみワクワクする」をテーマに、
「○○だったら、ワクワク」という用紙に、自分なりの「○○だったら」を書いてもらいました。

環境管理活動

製造本部長メッセージ

リケンテクノス株式会社
上席執行役員
製造本部長 兼 品質保証本部長
島田 高志（しまだ たかし）

製造本部は「リケンテクノス グローバル品質での国内・国外での競争力のある製品づくり」を方針として、安定した品質・適正な価格・迅速な納期で製品がお届けできるように取り組んでおります。そして、積極的な海外拠点への派遣、技能オリンピック、5S・改善活動、設備保全の強化を通じてグローバルに活躍できる人材の育成に努めております。
さらに、革新的生産体制の構築をし、独創的で卓越した樹脂素材の配合加工技術で、企業と人と社会に新たな価値と喜びを提供し続けます。
環境活動の取り組みとしては、省エネルギー化、廃棄物の削減、化学物質の適正管理を挙げています。

環境方針

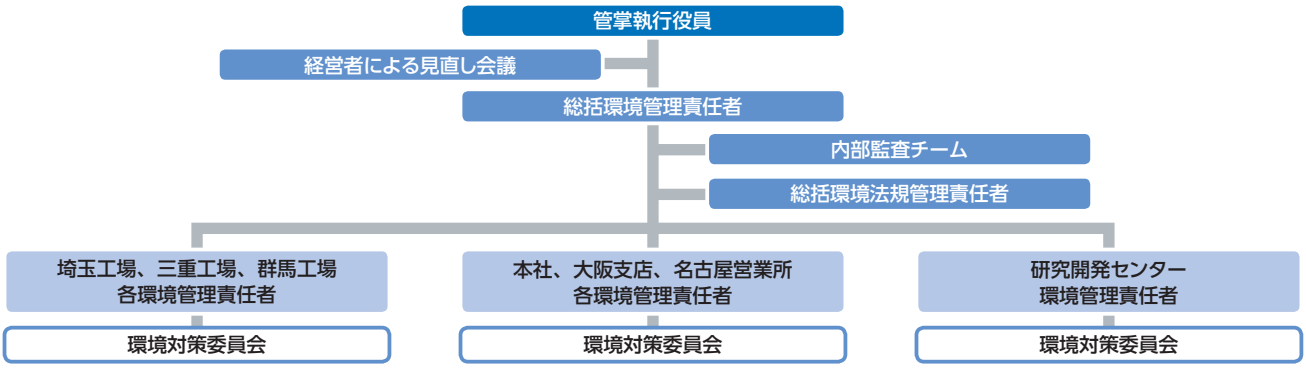
あらゆる企業活動において環境との調和に配慮し、地球環境の保全と持続可能な社会を実現するために、環境マネジメントシステムを構築し、全員参加のもとに次の事を実施します。

1. 事業活動において、環境法規及びその他の合意事項の遵守のみならず、自ら規定類を定め、環境管理レベルの継続的改善、環境汚染の予防を推進します。
2. 安全性の確保された原材料を使用し、省エネ・省資源型製品、リサイクル適合製品、生態系への負荷の少ない製品等の環境に配慮した、さまざまな素材のプラスチック製品等を社会に供給します。
3. 可能な限り無駄を削減し、原材料の有効利用、使用エネルギーの極小化に努め、二酸化炭素排出量の削減と産業廃棄物の削減を行い、地球環境・生態系への負荷を軽減します。
4. 環境方針を含め社内規定類を文書化し、社員への教育・啓蒙活動により、継続的な環境保全活動の定着化を図ります。
5. 環境方針達成のために環境目的及びできる限り数値化した目標を設定し、定期的に自己評価を行い、進捗を適時管理します。
6. 以上の活動を当社グループの活動に結び付け、各拠点における地域環境・生態系保全に最大の配慮を行い、安全な操業を確保します。
7. 適切かつ正確な情報開示を行い社会からの信頼と理解を得ることに努めます。

環境マネジメントシステム

環境マネジメントシステム組織図

管掌執行役員がトップに立ち、総括環境管理責任者の指揮のもと、各サイトに環境管理責任者を置き環境マネジメントシステムを構築しています。



推進体制

環境マネジメントシステムを推進するため、主要な会議、委員会等の構成メンバー、機能を明確にしています。

会議、委員会名	構成メンバー	機能
経営者による環境マネジメント見直し会議	全取締役、総括環境管理責任者	方針、目的および環境マネジメントシステムの妥当性評価
内部環境監査チーム	有資格内部監査員	適合性監査の実施
環境対策委員会	環境管理責任者、各部門長、各部門委員	環境目的・目標の設定、是正処置・予防処置の審議、環境問題の審議

総括環境管理責任者と環境管理責任者の役割

全社総括管理と各サイト管理の責任を明確にしています。

責任者名	役職名	役割
総括環境管理責任者	マネジメントシステム部長	全社の環境マネジメントシステムの構築・実施・維持
総括環境法規管理責任者	マネジメントシステム部長	環境関係法規等の管理
環境管理責任者	サイトの責任者（工場長等）	サイトの環境マネジメントシステムの構築・実施・維持

環境監査の体制

(1)内部監査

総括環境管理責任者の指示のもと、約100名の内部監査員によって毎年1回、品質、製品安全、化学物質管理をはじめとした環境マネジメントシステムの内部監査を行っています。2015年度は58部署で監査が実施され、35件の是正処置要求書が発行され、観察事項を含めると235件の指摘件数がありました。なかでも文書管理や設備管理の不備が多く見受けられました。是正処置の実施により引き続きマネジメントシステムの改善・確実な実施を図っていきます。

(2)外部監査

外部審査機関のISO9001・14001審査機関による定期審査を、本社、大阪支店、研究開発センター（東京）、三重工場サイトを対象に受審し、軽微な不適合5件、改善事項6件の指摘がありました。クレーム情報の共有化や廃油缶の転倒防止等については改善しました。

また、2015年度は15社の顧客監査を受けました。指摘事項につきましては、適切に改善を実施しました。

緊急時対応

各サイト・各部門で想定しうる緊急事態を定め、緊急事態対応一覧表を作成し、定期的に訓練を実施しています。

当社は多量の化学物質・消防法危険物を原材料として購入・使用しています。そのため、化学物質の社外への流出防止および消防法危険物起因の火災予防を最重点課題として取り組んでいます。2015年度は可塑剤の漏洩がありましたが、工場外への流出はなく、訓練どおり対処されました。また、近隣からの苦情はありませんでした。

ISO14001認証取得

環境との調和に配慮した企業活動を通じ、豊かな社会の実現に貢献し、すべてのステークホルダーからの信頼に応え得る企業の構築に取り組んでいます。

環境方針を設定し、全社全部門にて同規格を認証取得しています。

初回登録　2001年10月31日　　有効期限　2018年9月14日

活動結果の概要

2015年度環境目標と実績

当社は毎年環境方針を基に、事業環境に見合った環境目標を設定し、改善活動を進め、二酸化炭素(以下CO_2)の排出量削減、産業廃棄物の排出量削減そして化学物質の管理強化を主テーマとして全社横断的に取り組んでいます。2015年度は、全社各部署合計で125件の目標が設定され、103件(82%)が達成されました。

(1)エネルギー源使用量削減

目標設定件数	達成件数	目標	結果
62	54 (87%)	①電気使用量の生産量比　2012年度比3%削減 ②重油使用量の生産量比　2012年度比3%削減 ③CO_2排出量の生産量比　2012年度比3%削減 ④総CO_2排出量　2012年度比3%削減	①3.8%削減で達成 ②13.6%削減で達成 ③1.5%削減で未達成 ④0.8%削減で未達成

(2)廃棄物削減

目標設定件数	達成件数	目標	結果
32	25 (78%)	埋立・燃焼廃棄物量の総生産量比:0.3%以下 総廃棄物量の生産量比:4%以下	埋立・燃焼廃棄物量の総生産量比は0.16%で目標をクリア、総廃棄物量の生産量比は4.16%であったため、更なる努力をいたします。

(3)①化学物質管理の強化と②環境配慮型製品の開発

	目標設定件数	達成件数	目標	結果
①	10	9(90%)	独自に指定した化学物質の使用削減、環境配慮製品の開発。	①化管法第一種指定化学物質の2015年度使用量は1,890tで、2014年度比5%削減しました。 ②リサイクル好適材の2015年度生産量は、2014年度比7%増加しました。
②	21	15(71%)		

＊単純廃棄物:単純に埋立あるいは燃焼処理された廃棄物

リケンテクノスの環境負荷の状況

当社の事業活動からは、産業廃棄物の排出、温室効果ガス(CO_2)の排出、化学物質の排出・移動が大きな環境負荷項目として挙げられます。各々排出削減や適正管理に努めています。リケンテクノス全事業所(単体)での環境負荷実態を記載します。

● 生産に係わる製品1トン当たりのCO_2負荷量(2015年度)

インプット		アウトプット	
原材料(塗料等含む)	80,000t	コンパウンド製品	59,000t
梱包資材	2,800t	フィルム製品	13,000t
電気	63,700MWh	包装用ラップ製品	7,000t
重油	2,840kl	総廃棄物	3,600t
水道水	129,400m³	排水量	268,200m³
地下水	154,300m³		
工業用水	11,200m³		

CO_2負荷量 (t-CO_2/t)	
コンパウンド	0.24
フィルム	0.95
包装用ラップ	0.55

ストック汚染・公害防止の取り組み

2001年に各工場、事業所の調査を行った結果、旧蒲田工場に土壌汚染が確認され、土壌改質を継続しその状況を監視してまいりました。当該地の土壌改質工事を実施し、土壌汚染のない状態にし、2011年度に売却しました。また、この敷地を利用していた研究開発センターも隣接する敷地に移転しましたが、この敷地においても土壌汚染が確認されたため、移転にあたり一部について汚染拡散防止措置を施しました。

各サイトでは、環境法規制および自主規制監視項目について定期的に測定を実施しています。項目として排ガス、地下水、騒音、振動、臭気、放射線、粉塵などがあり、特に騒音対策に配慮しています。各工場では近隣住民の皆様と懇談会を定期的に開催させていただき、環境測定値の公開、工場内の査察の実施を通じ当社の事業活動へのご理解をいただいています。

省エネルギーと温室効果ガスの排出削減

当社は埼玉工場、三重工場が第一種エネルギー管理指定工場に指定され、群馬工場は第二種エネルギー管理指定工場に指定されています。

当社の事業活動から生じる温室効果ガス*1の主なものはCO_2です。

設備の稼働効率向上、蓄熱式脱臭炉導入、空調機のデマンド制御*2導入、工業用圧縮空気・蒸気の漏れ防止管理等の省エネ活動を推進しています。

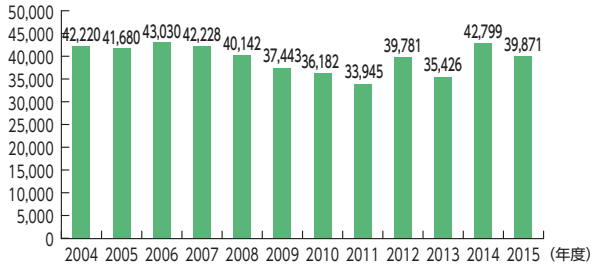
長年、CO_2排出量削減に主眼をおいて目標を展開してきましたが、近年、電力に関するCO_2換算係数が大きく変動することから、2014年度より、2012年度を基年度として、エネルギー源使用量の生産量比を、毎年1%削減することを目標に取り入れました。2015年度は2012年度比で、電気使用量の生産量比3.8%削減、重油使用量の生産量比13.8%削減を達成しました。

2015年末に重油ボイラーから都市ガスボイラーに変更したことが、重油使用量削減やCO_2排出量の削減、大気汚染の低減に繋がっています。

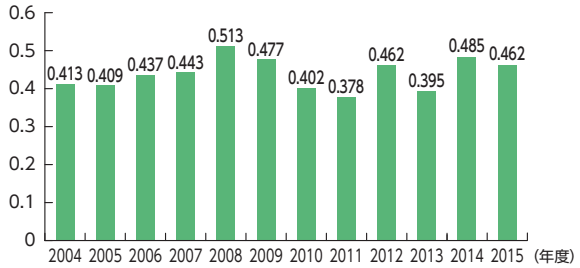
2013年3月、群馬工場の隣接地で再生可能エネルギーである太陽光発電設備が稼働を開始しました。2015年度は、群馬工場に約7万kWh供給し、約72万kWhを売電しました。

リケンテクノス株式会社
ソーラー発電所(群馬工場の敷地内)

● 二酸化炭素排出量(t-CO_2)



● 二酸化炭素排出量の生産量比排出量(t-CO_2/t)



※2010年度から調整後の排出係数を使用した値です。

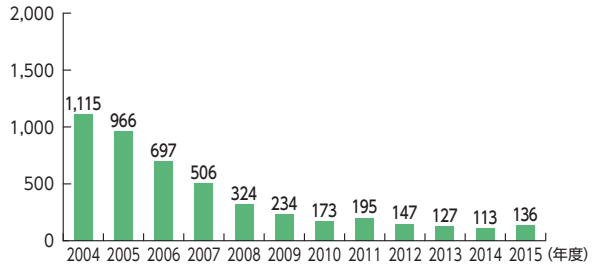
*1 温室効果ガスは、埼玉工場、三重工場、群馬工場、研究開発センター、本社および各営業拠点で使用した電気、重油等の消費によるCO_2排出量を算出しました。2005年より本社を、2008年度より各営業拠点を含みCO_2排出量を計上しています。物流における石油燃料消費のCO_2排出量は除いています。
*2 空調機のデマンド制御とは、電力会社との契約電力の最大値に近づいた時、自動的に空調機の圧縮機を停止させ電力の消費を抑える制御方法をいいます。

廃棄物の削減

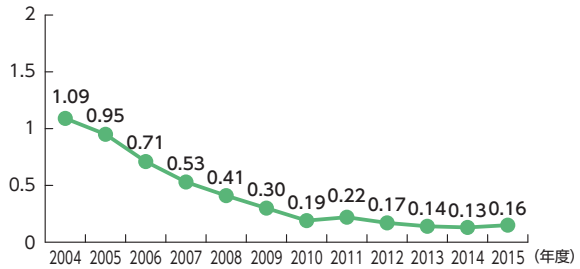
当社は、製造段階で発生する埋立・焼却廃棄物の削減を環境管理活動の主要課題に位置付け、2013年度から新たな目標「単純廃棄物量の生産量比 0.3%以下に、総廃棄物量の生産量比 4%以下に抑えることを目標に」に取り組むこととしました。工程改善による歩留り向上等により、廃棄物の発生そのものの抑制を図るとともに、発生した廃棄物に関しては分別を徹底し、マテリアルリサイクル、サーマルリサイクル、RPF(プラスチック由来の固形燃料)、セメント原料化等の有効利用への転換を図っています。

単純廃棄物量の生産量比は、昨年度の0.13%から0.16%に増加しました。今年は目標を0.15%以下に設定し、更なる廃棄物の削減やリサイクル化を推進しています。

● 単純廃棄物発生量(t)



● 単純廃棄物の生産量比率(%)



*埼玉工場、三重工場、群馬工場、研究開発センター(東京)で発生した単純廃棄物量です。

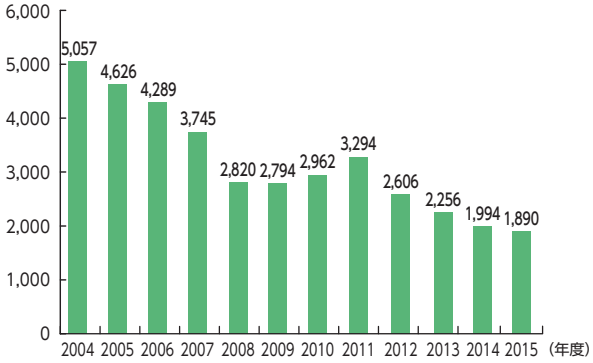
活動結果の概要

化学物質の適正管理

当社は、従来から化学物質審査規制法、労働安全衛生法や消防法等に基づき、化学物質管理を実施しています。1999年度には管理徹底のため集計システムを構築し、2001年4月施行の化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)に対応できる体制を整えました。

2009年10月には、化学物質排出把握管理促進法が改正施行され、PRTR対象化学物質の種類変更がありました。そのため、2010年度より新対象化学物質の使用や排出量等の集計を実施し、2011年度には、A重油に含まれるメチルナフタレン使用量も集計に追加しています。2011年度は当社グループ会社のリケンタイランドカンパニーリミテッドが洪水被害に遭ったことにより、日本国内において生産支援を行いました。その結果、化管法第一種指定化学物質の使用量が3,294トンと著しく増加いたしましたが、2012年以降は減少傾向にあります。PRTR対象化学物質の使用種類数は、2015年度28種類でした。うち1トン以上使用し国へ届け出したものは10種類でした。

● PRTR対象化学物質の使用量(t)



PCB廃棄物の保管状況

2001年7月、「ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法」(PCB*1特別措置法)が施行されました。グループ全体での管理強化のため2005年度中に関係会社で保管していた6台の廃PCB機器を埼玉工場に移動・保管しました。埼玉工場、三重工場、研究開発センター(東京)の3事業所でのPCB廃棄物の保管および処理状況は下記の通りです。

また1989年以前の重電機器には微量のPCBが含有された絶縁油が使用されている可能性が高いため、使用中のコンデンサ・トランスを順次、調査分析を進めています。

事業所名	PCB廃棄物		保管と処理状況
埼玉工場	高圧コンデンサ	15台(高濃度)	鉄製容器に保管 国からの処理連絡待ち
	高圧トランス	2台(低濃度)	2015年度処理完了
	PCB含有廃水・廃油	1,446l(低濃度)	2015年度処理完了
三重工場	高圧トランス	4台(低濃度)	2014年度処理完了
	PCB含有廃油	350l(低濃度)	
	PCB含有ウェス	300g(低濃度)	
研究開発センター(東京)	高圧コンデンサ	12台(高濃度)	2013年度処理完了
	高圧トランス	1台(低濃度)	
	PCB含有廃油	330l(低濃度)	
	PCB含有ウェス	15kg(低濃度)	

*1 PCB:PolyChlorinated Biphenyl(ポリ塩化ビフェニル)の略称

従業員の環境教育・啓発の実施状況

2008年度から、エネルギーの大切さ、地球温暖化(二酸化炭素排出削減)への意識向上を図ることを目的に、従業員とその家族を対象に、日常生活における「エコライフDAY」アンケートを実施しています。2015年度は従業員とその家族から(夏:1,497名、冬:1,365名)回答が寄せられ、一人当たりの平均CO_2削減量は(夏:920g-CO_2/日、冬:960g-CO_2/日)でした。また、CSR報告書を社員全員に配布し、一人ひとりの活動結果がおよぼす当社全体への影響を理解するよう啓発しています。

	参加者数(名)	削減量(g-CO_2/人・日)
2013年度夏	1,432	837
2013年度冬	1,576	750
2014年度夏	1,474	760
2014年度冬	1,480	960
2015年度夏	1,497	920
2015年度冬	1,365	960

事業活動に係わる環境法規・協定

各生産拠点、各営業拠点での遵守すべき環境法規・協定等およびその概要を「環境適用法規基準」にて明確にし、環境法規の遵守を徹底しています。2015年度は、フロン排気抑制法への対応がやや遅れたものの、すでに実施しました。

また、埼玉県の地球温暖化対策計画制度・目標設定型排出量取引制度への対応を行い、第1次計画のCO_2削減目標(基準年の6%削減)をクリアしました。

特定化学物質規制への対応

原材料管理については、欧州におけるREACH*1への対応、また日本における化学物質に関する諸規制の改正への対応をより充実するため、化学物質含有情報シートを作成し、2009年8月からRoHS2*2の6物質の測定データ、微量残留化学物質を含めた規制対象化学物質の含有情報を収集することとしました。そして関係会社への適用も明確にし、「リケンテクノスグループ グリーン調達基準」としました。

また、2019年7月より追加規制されるフタル酸エステル類4種についても対応できる体制を構築しています。

お客様に安心・安全な商品を提供することはメーカーの使命であり、使用する化学物質の安全性を確保することは当社の重要課題として捉え、2006年度に全社横断的な組織である「化学物質管理委員会」を新たに設置しました。『化学物質管理指針』を設定し、法律で製造・使用が禁止されている化学物質はもちろん、化学物質審査規制法の監視化学物質なども使用禁止とし、鉛やトルエンなど法律で使用禁止となっていない化学物質についても、労働安全衛生上使用を避けた方が安全と思われるものは、自主的に削減することを明確に意志表示しました。さらには、新規採用化学物質の審査などを実施し、全社を挙げて安全性最優先の商品を提供する仕組みを構築していきます。

*1 REACH:化学物質の登録、評価、認可および制限に関する規則
*2 RoHS2指令:欧州において有害物質の電気・電子機器への使用を制限するため2006年から施行された指令

生物多様性

化学物質審査規制法第一種・第二種特定化学物質および監視物質の不使用、PRTR第一種指定化学物質の使用削減等に取り組み、また大気汚染防止法、水質汚染防止法、労働安全衛生法等を遵守して、人への影響、生態系への影響を配慮した製品開発、生産、販売を実施しています。

環境会計

当社は、環境保全活動への取り組みに関する会計情報を2006年度より開示しています。

2015年度環境会計の集計基準

(1)集計範囲:リケンテクノス全事業所(単体)
(2)対象期間:2015年4月1日～2016年3月31日
(3)参考文献:『環境会計ガイドライン2005年版』(H17.2環境省発行)

2015年度環境会計の総括

2015年度は、環境保全コスト投資額約0.9億円、費用額約9.3億円で合計約10.2億円でした。投資額の内訳は公害防止・地球環境保全・資源循環コストです。費用額ではRoHS指令対応のための分析費用やISO維持活動等があり、環境配慮型製品の研究開発費用が約8.1億円と非常に大きなウエイトを占めています。

活動の結果の環境保全効果として、廃棄物最終処分量は、施策の増加などにより、前年度と比べ23トン増加の136トンでした。また、CO_2排出量については、継続的な省エネ活動等により、前年度と比べ2,928t-CO_2減少の39,877t-CO_2となりました。電力のCO_2排出量換算係数はやや小さくなったためです。電力原単位(電気使用量MWh/生産量t)については、2012度比3%削減目標のところ3.8%削減、重油原単位(重油使用量Kl/生産量t)についても、2012度比3%削減目標のところ10.8%削減となり、ともに目標を達成しました。

廃プラ等の有価売却・省エネ等による費用削減等で約1,410万円の経済効果を得ることができました。

活動結果の概要

● 環境保全コスト

単位:千円

分類	調査対象の取り組みの内容	投資額*1	費用額*2
1.事業エリア内コスト		88,095	85,514
*公害防止コスト	騒音対策工事、飛散防止設備の維持管理	4,345	42,387
*地球環境保全コスト	省エネ設備の導入・改善	83,750	0
*資源循環コスト	産廃処理、リサイクルコスト等	0	43,127
2.上・下流コスト	製品含有化学物質分析費用	0	15,600
3.管理活動コスト	CSR報告書発行、ISO維持活動（外部審査費用） 排水・VOC分析、構内緑地管理費等	0	15,268
4.研究開発コスト	環境配慮型製品の研究開発費	0	813,402
5.社会活動コスト	工場周辺美化活動費、寄付金	0	1,013
6.環境損傷対応コスト	土壌調査改質費	0	1,883
合計		88.095	932,680

*1 投資額:対象期間中の環境保全を目的とした支出額で、その効果が数期にわたって持続し、その期間に費用化されていくもの
*2 費用額:環境保全を目的とした財・サービスの費消によって発生する費用または損失

● 環境保全効果

環境保全効果の分類	環境パフォーマンス指標		2014年度	2015年度
事業活動に投入する資源に関する環境保全効果	総エネルギー投入量（GJ）		771,617	745,045
	種類別エネルギー投入量	電気（MWh）	65,600	63,790
		重油（kl）	3,260	2,844
		灯油（kl）	0	0
		ガソリン（kl）	45	39
		軽油（kl）	8	5
	PRTR管理対象物質投入量（t）		1,970	1,861
	水資源投入量	水道水（m^3）	137,000	129,489
		地下水（m^3）	160,000	154,372
		工業用水（m^3）	9,800	11,229
事業活動から排出する環境負荷および廃棄物に関する環境保全効果	温室効果ガス排出量（t-CO_2）		42,816	39,860
	PRTR管理対象物質排出量（t）		6.2	5.0
	PRTR管理対象物質移動量（t）		5.1	6.8
	廃棄物等総排出量（t）		3,660	3,605
	廃棄物最終処分量（t）		113	136
	排水量（m^3）		268,300	268,200
事業活動から産出する財・サービスに関する環境保全効果	容器包装リサイクル量（t）		396	425
その他の環境保全効果	製品等の輸送量（t・km）		25,253,800	26,898,800
	輸送に伴うCO_2排出量（t）		4,394	4,669

● 環境保全対策に伴う経済効果

単位:千円

効果の内容	金額	
	2014年度	2015年度
プラスチック・紙屑等の再資源化による利益	4,761	5,796
省エネ等による費用削減	5,851	8,317
合計	10,612	14,113

資産除去債務について

資産除去債務に関する会計処理は2010年4月1日より適用が開始されました。現時点での環境関連法令規定による資産除去債務を、次のように把握しています。

2016年3月末現在　単位:千円

費用内容	処理費用
建物原状回復費	66,746
石綿使用部位の処理費	30,120
PCB使用設備更新費	0
土壌汚染処理費	57,973
合計	154,839

リケンテクノスグループ環境データ

リケンテクノス工場別環境データ

埼玉工場

- 敷地面積:58,739m²
- 事業内容:塩化ビニル樹脂をはじめとする各種熱可塑性樹脂のコンパウンド、フィルムおよびラップフィルムの製造
- 従業員:237名

三重工場

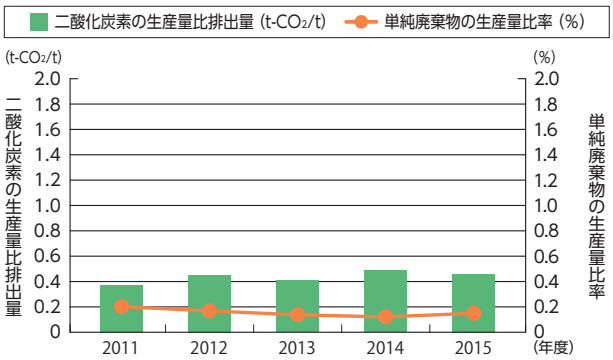
- 敷地面積:55,247m²
- 事業内容:塩化ビニル樹脂をはじめとする各種熱可塑性樹脂のコンパウンド、フィルムおよびラップフィルムの製造
- 従業員:212名

※埼玉工場、三重工場にはリケンファブロ株式会社の活動も含んでいます。

群馬工場

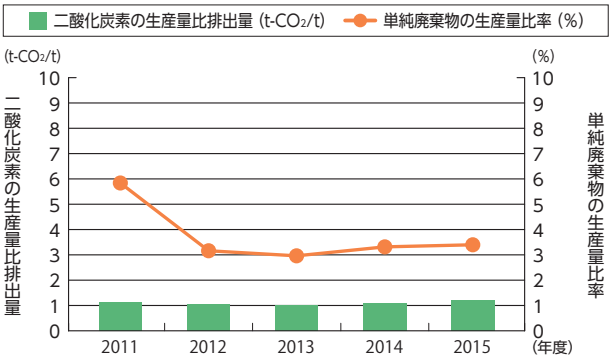
- 敷地面積:55,904m²
- 事業内容:クリーン環境下での高機能フィルムの製造
- 従業員:42名

二酸化炭素の生産量比排出量と単純廃棄物の生産量比率(埼玉工場、三重工場、群馬工場の合計)

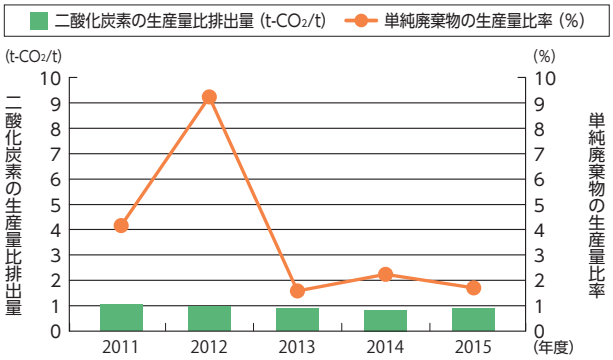


リケンテクノス関係会社環境データ

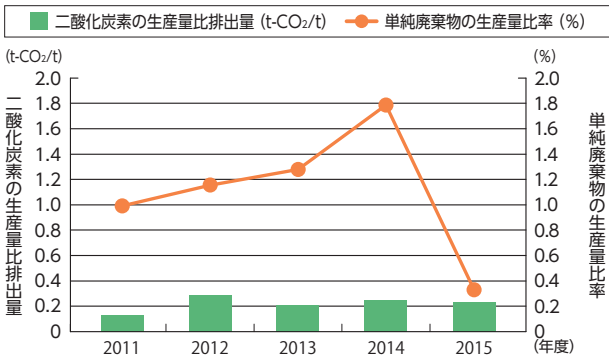
進興電線株式会社　従業員数 67名



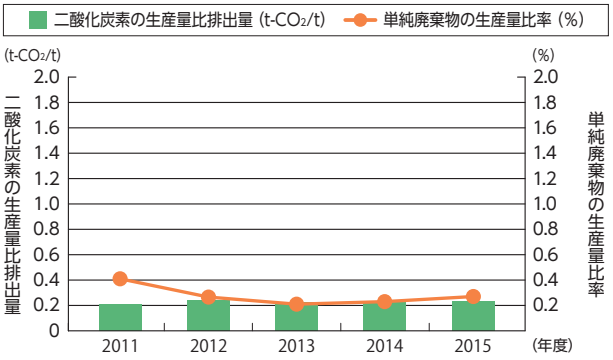
株式会社協栄樹脂製作所　従業員数 52名



リケンケミカルプロダクツ株式会社　従業員数 53名

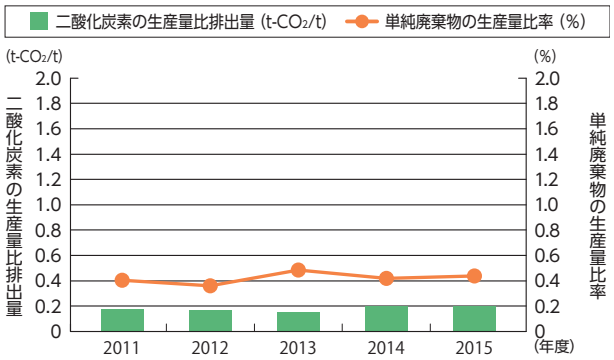


リケンタイランドカンパニーリミテッド　従業員数 230名

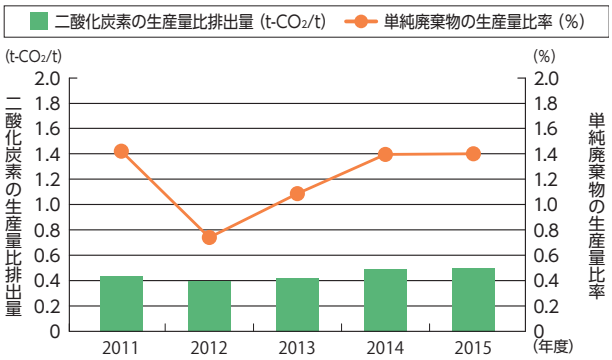


活動結果の概要

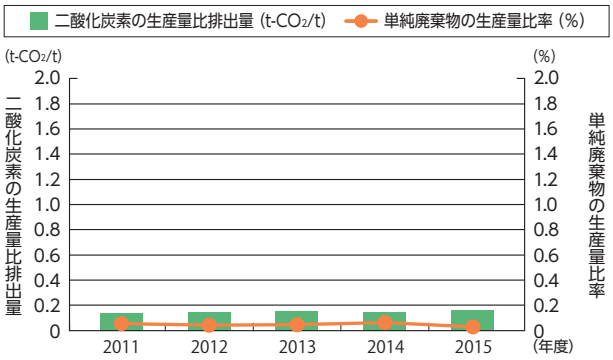
リムテックコーポレーション　従業員数 112名



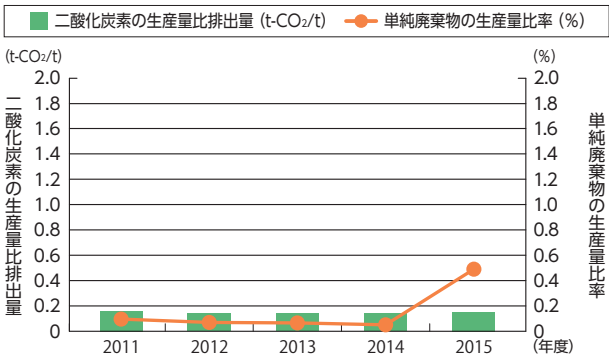
リケンエラストマーズコーポレーション　従業員数 26名



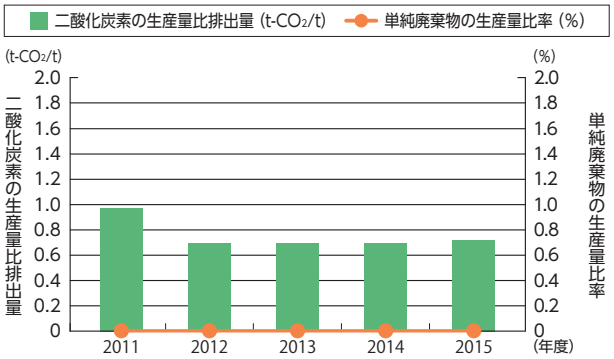
PT. リケンインドネシア　従業員数 201名



上海理研塑料有限公司　従業員数 105名



理研食品包装（江蘇）有限公司　従業員数 42名



有識者の意見

アミタ株式会社
環境戦略デザイングループ
環境戦略支援チーム
シニアコンサルタント
猪又（いのまた） 陽一（よういち） 氏

リケンテクノスのCSR報告書に有識者の意見を寄せるのは今回が初めてになります。トップメッセージで、常盤社長が新しく就任されたことが書かれていましたが、私自身も何かご縁を感じております。そのメッセージの中で、自社の強みが「人と技術」であることを明確に打ち出しています。昨年の特集では、社員による座談会など「人」がテーマでしたが、今年は「新3ヵ年中期経営計画」を取り上げていることからも、新市場を切り開いていく強い意気込みを感じました。恐らく、常盤社長のトータル15年間の米国駐在経験をベースに、これから先、海外市場でエネルギッシュに攻めていかれることでしょう。

私も仕事柄、数多くのCSR報告書を拝見する機会が多いのですが、貴社のCSR報告書を拝見して、「配合加工技術」を中心に据えた真面目な会社であることが伝わってまいりました。塩化ビニル樹脂コンパウンドからスタートした技術力と人材が脈々と現在まで受け継がれており、特集として「新3ヵ年中期経営計画」では、改めて貴社ビジネスの方向性が示された良い内容になっていると思います。特に、最近では、「ESG投資」という言葉が世間を騒がせていますが、投資家にとってもCSR報告書は投資の重要な判断材料となってきています。トップメッセージやガバナンス、中期経営計画などは、財務諸表では見られない企業の持続性を判断する上でとても重要になります。また、次世代の応援活動である「夢らぼ」（P34,35）では、貴社が掲げる「科学の力のチャレンジメーカー」の責任として次世代の人材育成に関わっていく、まさに本業と重なる活動であり、今後も貴社のCSR活動の顔として積極的に進めていくことを期待しております。

昨年の有識者の意見にあった改善課題として、「中期経営計画とCSR取り組みの一体化（=CSR経営）」を開示することが書かれていましたが、今回もその課題については改善途中のように感じました。ISO26000に沿って中核主題には取り組んでいますが、どうしても総花的に見えてしまう印象があります。貴社として影響がある課題やステークホルダーの期待などからCSR課題に対する重要度（マテリアリティ）をしっかりと定めるべきだと思います。

また、トップメッセージにもありましたが、今後貴社の事業がグローバル化されると、国際スタンダードへの対応がますます求められてきます。特に、情報開示としてGRIやIIRCなどの国際ガイドラインに沿った報告が求められます。報告書の次の段階として、そういった視点を取り入れることも検討すべきでしょう。

最後に、今回のCSR報告書は新3ヵ年中期経営計画が示されましたが、改めて、これから起きる環境制約下でのライフスタイルからバックキャスティングで自社の事業を捉え直してみたらいかがでしょうか。今、世界では様々な環境問題や社会課題が起きています。御社の強みである「樹脂素材の配合加工技術」を活用し、そういった課題に対して「本業で取り組むCSR」であるCSV（Creating Shared Value）の事業化も重要です。是非、新たなCSV事業に取り組まれることを期待しております。

有識者の意見を受けて

リケンテクノス株式会社 代表取締役 社長執行役員 常盤 和明

2016年4月に新3ヵ年中期経営計画がスタートしました。事業戦略の中で自動車、医療・ヘルスケア、光学分野・ディスプレイ、食品包材などを重点市場と位置付け、これらの市場における社会課題や環境問題を当社の立場から解決してまいる所存です。CSR課題に対する重要度についても、中期経営計画を推進していく中でお客様との取り組みを踏まえ、明確にしていくことが重要と考えております。猪又様のご指摘を真摯に受け止め、「企業と人と社会に新たな価値と喜びを提供し続ける」べく、これからもCSR活動を積極的に推進し、ステークホルダーの皆様と、さらに強固な信頼関係を築いていけるよう努めてまいります。

編集後記

本報告書では、2016年4月にスタートした新3ヵ年中期経営計画を中心にご紹介しました。「人の成長発展こそ企業の成長」という新社長の思いが込められた経営方針「ACT NOW! ACT TOGETHER! 2018」のもと、私たちリケンテクノスグループの社員は一丸となって課題を解決してまいります。本報告書を通じてリケンテクノスグループの取り組みをご理解いただくとともに、本報告書への率直かつ忌憚のないご意見を賜りますようお願いいたします。

本報告書取扱部署代表者
取締役常務執行役員 管理本部長 兼 経営企画本部長：入江 淳二
品質保証本部 マネジメントシステム部　：井上 宏一、栗原 仁
経営企画部 企業ブランディンググループ　：吉岡 さやか、宮村 かおり

リケンテクノス ウェイ

私たちは科学の力で
豊かさ、安心、快適を創り出す
チャレンジメーカーです
独創的で卓越した
樹脂素材の配合加工技術で
企業と人と社会に
新たな価値と喜びを提供し続けます

We are a challenger
that harnesses the power of science
to improve the quality of life
and create a safe, affluent society.
We continuously provide new value and satisfaction
to people, companies and society
through our original and superior formulations
and manufacturing technologies of multiple resins.

お問い合わせ先
この報告書の内容に関するご意見、お問い合わせは下記で承っています。

リケンテクノス株式会社　経営企画部
〒101-8336
東京都千代田区神田淡路町二丁目101番地　ワテラスタワー
TEL：03-5297-1631　FAX：03-5297-1660

ホームページ
http://www.rikentechnos.co.jp

2016年9月発行

FSC www.fsc.org ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C005531
VEGETABLE OIL INK